

コンピューターミシン 取扱説明書

CPS58シリーズ

brother

1 めう前の準備

めう前に必要な準備を説明します。

2 めい方の基本

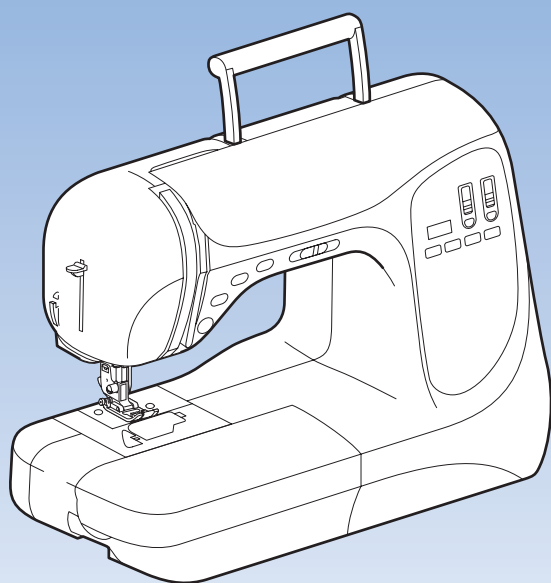
基本のめい方と上手にめうコツなどを説明します。

3 いろいろなめい方

いろいろなめい方とその使い方を説明します。

4 付録

ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。



- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

安全にお使いいただくために

本書および本機で使われている表示や絵文字は、本機を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。



警告

- この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。



注意

- この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本書で使用している絵文字の意味は次のとおりです



特定しない禁止事項



特定しない危険通告



分解してはいけません



感電の危険があります



水に濡らしてはいけません



火災の危険があります



特定しない義務行為



針の下に指を入れないでください



電源プラグを抜いてください

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことから守ってください。



警告



- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。

- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 使用中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき



⚠ 注意



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



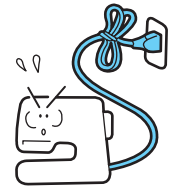
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。



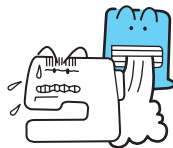
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室（マシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。



- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0~40℃です。マシン内部の温度が上がったり、マシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。



- 火の気のあるもののそばでは使用しないでください。（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）火災の原因となります。

⚠ 注意



- 野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル 0120-340-233にご連絡ください。



- スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。



- 以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因となります。
 - 温度が著しく高くなる場所
 - 温度が著しく低くなる場所
 - 急激に温度が変化する場所
 - 湿気、湯気の多い場所
 - 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
 - 屋外や直射日光の当たる場所
 - ほこり、油煙の多い場所



- ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30cm以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。



- ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



⚠ 注意



- 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室(ミシン119番)」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。



- ミシン本体の重さは約8kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



- ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたり、すべて落としたりして、ケガの原因となります。



- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。



- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「お客様相談室(ミシン119番)」フリーダイヤル0120-340-233にご依頼ください。



- 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。



- リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。



- 針と押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スイッチが押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。

⚠ 注意



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。



- 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。



- 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。



- 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。



- ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。



⚠ 注意



- お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用する時や、お子様の近くで使用するときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。



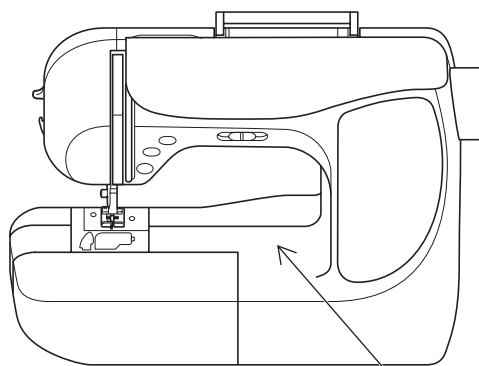
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。

🌟 お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 本書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室(ミシン119番)」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。

警告ラベルについて

ミシンには下記の警告ラベルが表示されています。
警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。



ラベルの場所

目次

安全にお使いいただくために	1
警告ラベルについて	6
はじめに	10
製品の特長	10
付属品を確認してください	11
付属品	11
補助テーブル内付属品	11
別売品	13
各部の名前とはたらき	14
前面	14
針・押え部	15
右側面・背面	15
操作スイッチ	16
表示パネル	17

1 めう前の準備

19

電源を入れましょう	20
電源に関する注意	20
電源を入れる	21
電源を切る	21
下糸をセットしましょう	22
ボビンに関する注意	22
下糸を巻く	22
下糸をセットする	27
上糸を通しましょう	29
針に糸を通す	32
腰が強い糸を使うとき	33
下糸を引き出してからめうとき	34
針を交換するには	35
針に関する注意	35
針の種類と使い分け	35
正しい針の見分け方	36
針を交換する	37
押えを交換するには	38
押えに関する注意	38
押えを交換する	38
押えホルダーを外すとき	39
筒ものや大きな布をめう	41
筒ものをめう	41
大きな布をめう	41

2 ぬい方の基本 43

ぬってみましょう.....	44
ミシンかけの手順.....	44
布地をセットする.....	45
ミシンをスタートさせる.....	46
返しぬいをする.....	47
糸を切る.....	49
上手にぬうコツ.....	50
糸調子を調節する.....	50
ぬい目の長さや幅を調節する.....	51
試しぬいをする.....	52
ぬう方向を変える.....	52
カーブをぬう.....	52
厚い布地をぬう.....	52
薄い布地をぬう.....	53
伸びる布地をぬう.....	53
面ファスナー(マジックテープ®)をぬう.....	54
ぬいしろの幅をそろえる.....	54
便利な機能.....	55
針停止位置を変更する.....	55
自動で返しぬい/止めぬいをする.....	55

3 いろいろなぬい方 57

ぬい方を選びましょう.....	58
模様を選ぶ.....	58
ぬいしろを始末する.....	60
たち目かがり押え<G>を使ったたち目かがり.....	60
ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり.....	61
サイドカッター押え<S>(別売)を使ったたち目かがり.....	62
地ぬいをする.....	64
地ぬい.....	64
すそ上げをする.....	66
ボタン穴かがりをする.....	69
ファスナーを付ける.....	75
つき合わせ.....	75
片返し.....	77
伸びる布地やゴムテープをぬう.....	80
伸縮ぬい.....	80
ゴムテープ付け.....	81

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう	82
アップリケ	83
パッチワーク（クレイジーキルト）	84
ピーシング	84
キルティング	85
フリーモーションキルト	86
丈夫にしたいところをぬう	88
三重ぬい	88
かんどめ	89
はとめ穴を作る	91
飾りぬいをする	92
ファゴティング	93
スカラップ	93
スモッキング	94
つき合わせ	95
ヘアルーム	95

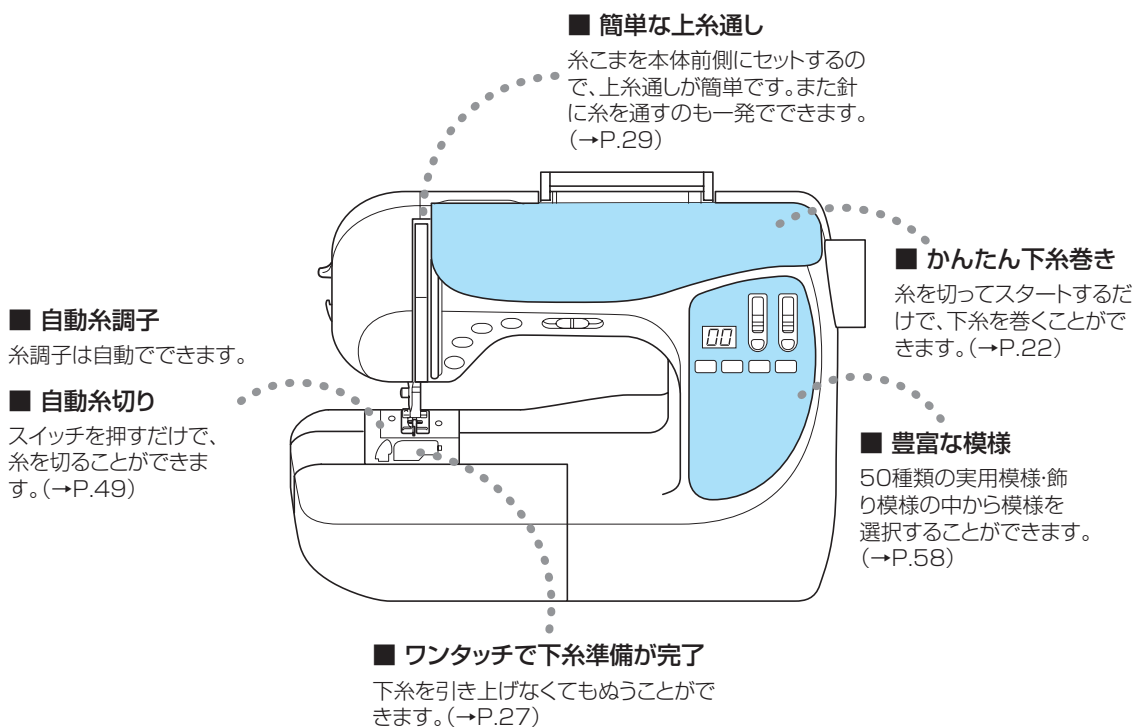
4 付録

設定	100
模様設定一覧	100
お手入れ	103
本体表面の掃除	103
注油に関して	103
ミシンを保管するときのご注意	103
釜の掃除	103
困ったとき	105
よくあるご相談	105
上糸がつる	105
布裏で糸がからまる	106
糸調子が合わない	108
布がミシンに入り込んでとれなくなった	109
こんなときには	113
エラーメッセージと電子音について	117
上ふたが外れたとき	117
仕様	118
本体仕様	118
索引	119

はじめに

このたびは、当社の製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」(→P.1)をよくお読みの上、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また本書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

製品の特長



付属品を確認してください

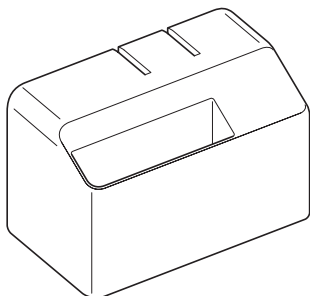
箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品

箱の中には以下のものが入っています。

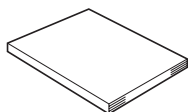
■ ハードケース

ミシンを使用しないときは、ケースに入れて収納してください。



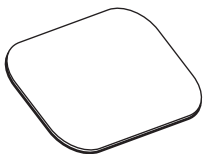
■ 取扱説明書

本書です。大切に保管してください。



■ かんたん操作ガイド

下糸の準備から上糸を通すまでの手順が確認できます。



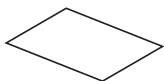
■ 取扱説明 DVD

ミシンの基本的な使い方を DVD で紹介しています。



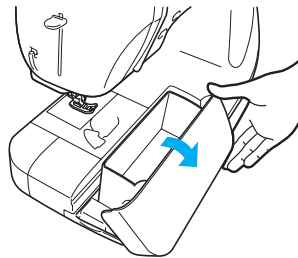
■ 保証書

ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。



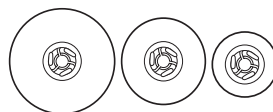
補助テーブル内付属品

補助テーブルの中には、次のものが収納されています。



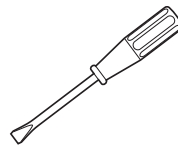
■ 糸こま押え

上糸をセットするとき 사용합니다。糸こまの大きさによって大/中/小を使い分けます。糸こま押え(中)は、購入時にミシンの糸たて棒にセットされています



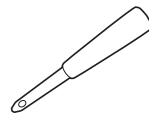
■ ドライバー

ミシン針を交換するときなどに 사용합니다。



■ はとめ穴パンチ

はとめ穴(ひもなどを通すための丸い穴)をあけるときに 사용합니다。



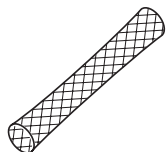
■ ミシンブラシ

釜などの細かい部分のほこりを取り除くときに 사용합니다。



■ 糸こまネット

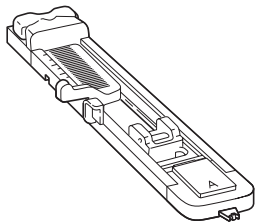
ぬい強い糸をセットするときに使用します。



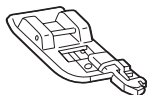
■ 押え

ぬい方に合った押えが用意されています。押えには A・G・N・I・J・R の記号が記されています。

- ボタン穴かがり押え<A>



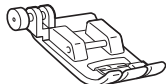
- たち目かがり押え<G>



- 片押え<I>



- ジグザグ押え<J>



※購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。

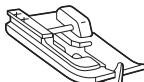
※押え固定ピンが付いています。

押さえ固定ピンは、厚い布地のぬい始めなど、段差があって布地を送ることができないときに使用します。(→P.52)

- 模様ぬい押え<N>

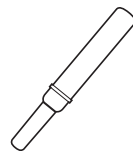


- まつりぬい押え<R>



■ リッパー

ぬい目をほどこいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。



■ ボビン

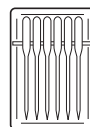
下糸を巻いて使用します。本機専用のものが4個付属しています。そのうちの1個は、購入時に釜にセットされています。



■ ミシン針 (HA × 1)

4種類(計6本)の針が付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。

詳細は「針の種類と使い分け」(→P.35)で説明します。



黄 #11(2本)

赤 #14(2本)

緑 #16(1本)

ニット用・金 #11(1本)

■ ネジ回し

針板を開閉するときに使用します。

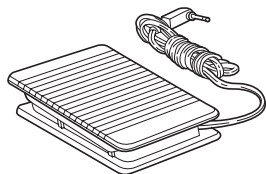


別売品

別売品として、以下の製品を用意しています。

■ フットコントローラー (モデル名：FC31091)

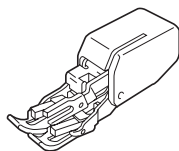
ミシンを足で操作するとき 사용합니다。



型式：MODEL P

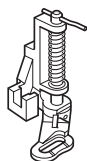
■ ウォーキングフット (モデル名：F033)

ビニールや皮など、ぬいにくい布地をぬうときに 사용합니다。



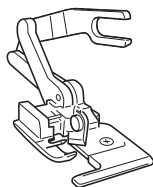
■ キルト押え (モデル名：F005N)

フリーモーションキルトをするときに 사용합니다。



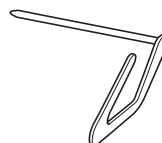
■ サイドカッター押え (モデル名：F054)

布端を切りながら、たち目かがりなどをするとき 사용합니다。



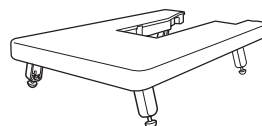
■ キルター (モデル名：F016N)

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで 사용합니다。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。



■ ワイドテーブル (モデル名：WT2)

大きな作品をぬうときに、作業スペースを広げるために 사용합니다。



■ ウィングニードル (モデル名：WN001)

針穴を大きく開けてレース風の飾り模様をぬうときに 사용합니다。



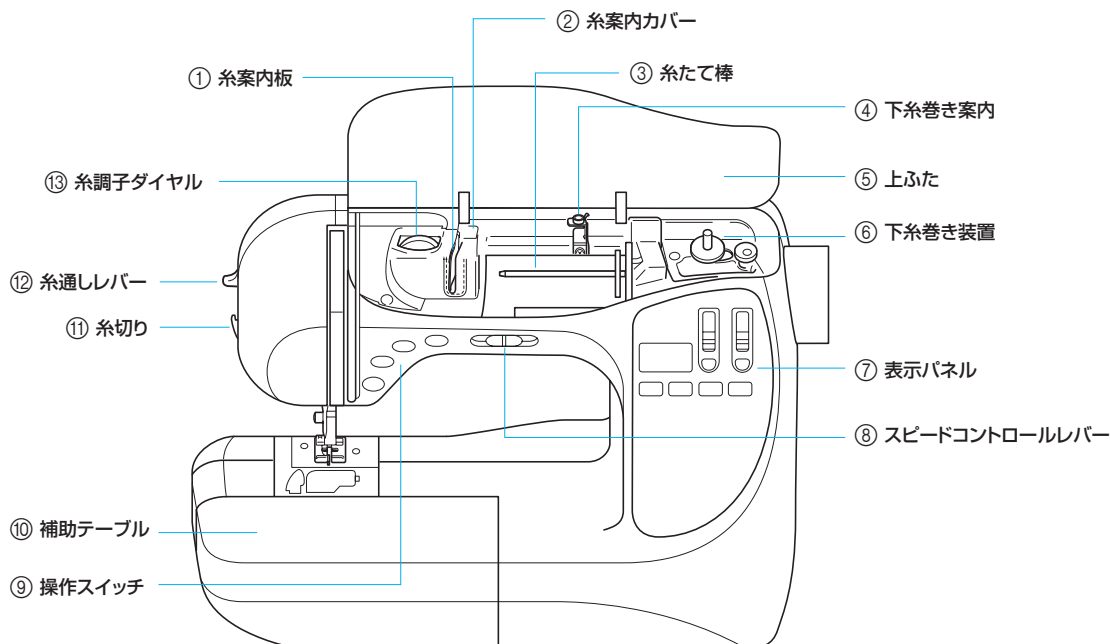
お知らせ

- 別売品・部品については、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にお問い合わせください。

各部の名前とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面



① 糸案内板

② 糸案内カバー

上糸を通すときに糸をかけます。

③ 糸たて棒

糸こまを差し込みます。

④ 下糸巻き案内

下糸をボビンに巻くときに糸をかけます。

⑤ 上ふた

このふたを開いて糸をセットします。

⑥ 下糸巻き装置

下糸をボビンに巻くときに使用します。

⑦ 表示パネル

ぬい方を選択します。(→P.17)

⑧ スピードコントロールレバー

ぬう速さを調節します。

⑨ 操作スイッチ

ミシンをスタートさせたり、糸を切るときに使用します。(→P.16)

⑩ 補助テーブル

この中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときは、ここを外します。

⑪ 糸切り

ここに引っかけて糸を切ります。

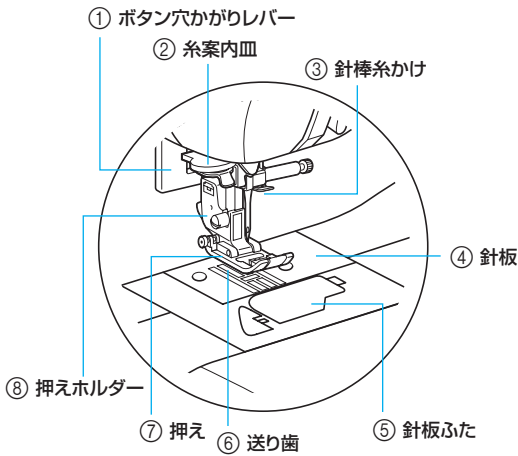
⑫ 糸通しレバー

針に糸を通すときに使用します。

⑬ 糸調子ダイヤル

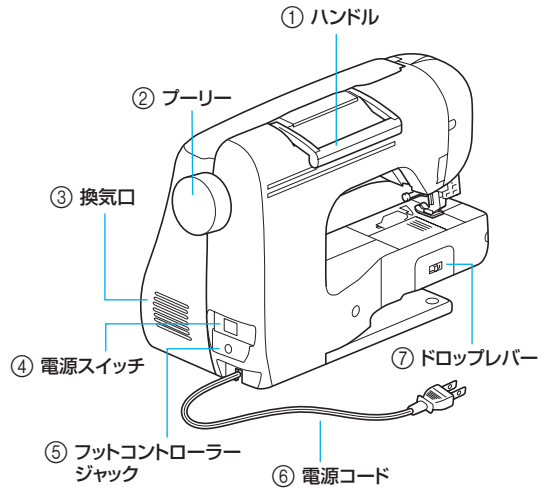
上糸調子を調節します。

針・押え部



- ① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。
- ② 糸案内皿
糸通し装置を使って針に糸を通すときに、ここに糸を通します。
- ③ 針棒系かけ
上糸をかけます。
- ④ 針板
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。
- ⑤ 針板ふた
ここを開けてボビンをセットします。
- ⑥ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑦ 押え
布地を押さえます。5種類の押えが付属しているので、ぬい方に合った押えをセットします。
- ⑧ 押えホルダー
押えを取り付けます。

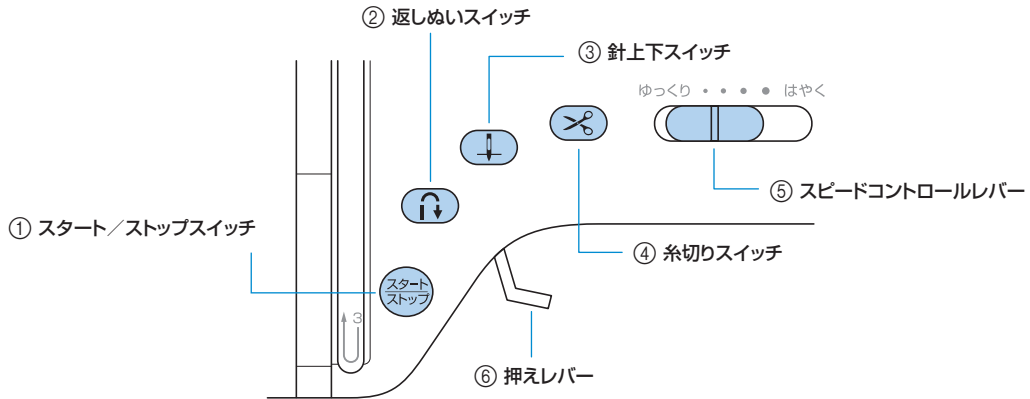
右側面・背面



- ① ハンドル
ミシンを移動するときは、ここを持って持ち上げます。
- ② プーリー
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。
- ③ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを設置するときは、ここをふさがないようにしてください。
- ④ 電源スイッチ
電源を入れるスイッチです。
- ⑤ フットコントローラージャック
ここに別売のフットコントローラーの接続ジャックを差し込みます。
- ⑥ 電源コード
家庭用電源コンセント(AC100V)に接続します。
- ⑦ ドロップレバー
送り歯を下げるときに使用します。

操作スイッチ

ミシンの基本的な操作が手もとでできます。



① スタート/ストップスイッチ

ミシンをスタートまたは停止します。スイッチを押している間は、ゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった(布地に刺さった)状態で止まります。詳細は「ミシンをスタートさせる」(→P.46)で説明します。
ミシンの状態によって、スイッチの色が緑・赤・オレンジに点灯します。

緑:ミシンがスタートできる状態、またはぬっているとき
赤:ミシンがスタートできない状態のとき
オレンジ:下糸巻き軸が右側になっているとき

② 返しぬいスイッチ

返しぬいまたは止めぬいをします。返しぬいの場合はスイッチを押している間、ぬった方向の逆にぬいます。止めぬいの場合は、同じ場所で3~5針分ぬってから止まります。詳細は「返しぬいをする」(→P.47)で説明します。

③ 針上下スイッチ

針の位置を上または下に切り替えます。続けて押すと、1針分ぬえます。

④ 糸切りスイッチ

ぬい終わったときにこのスイッチを押すと、上糸と下糸が切れます。詳細は「糸を切る」(→P.49)で説明します。

⑤ スピードコントロールレバー

ミシンの進む速度を調節します。

⑥ 押えレバー

押えを上げ下げします。

注意



- 糸を切ったあとは、糸切り操作をくり返し行わないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。

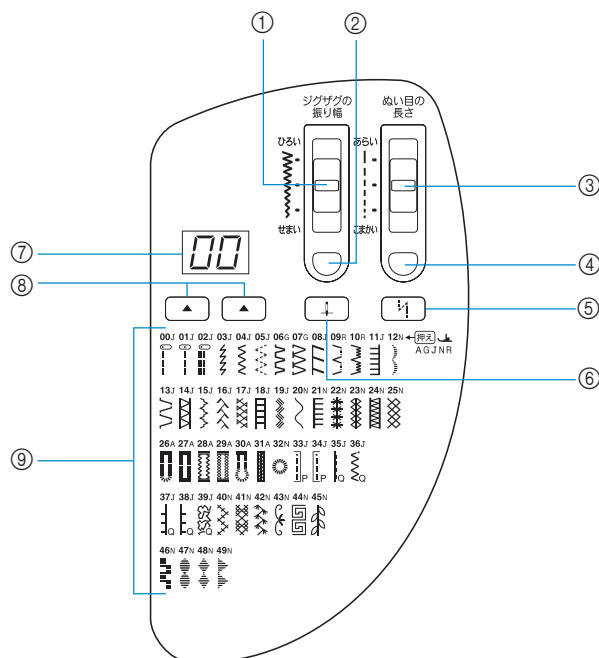


お願い

- 布地がない状態やミシンが動いているときは、糸切りスイッチを押さないでください。
- ナイロン糸など特殊な糸を切るときは、本体側面の糸切りを使用してください。詳細は、「糸を切る」(→P.49)で説明します。

表示パネル

前面右側の表示パネルには、ぬい方を設定するさまざまなスイッチやレバーがついています。



① ジグザグの振り幅調節レバー／②ジグザグの振り幅マニュアルスイッチ

模様幅や針の位置を調節します。ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押してから、調節レバーで変更します。

③ ぬい目の長さ調節レバー／④ぬい目の長さマニュアルスイッチ

ぬい目の長さを調節します。ぬい目の長さマニュアルスイッチを押してから、調節レバーで変更します。

⑤ 自動返しぬい／止めぬいスイッチ

ぬい始めとぬい終わりで自動的にほつれ止めをするときに使用します。

⑥ 針停止位置スイッチ

ぬい終わったときの針位置(上/下)を変更します。スイッチのライトが点灯しているとき、ぬい終わりの針位置は下です。スイッチのライトが消えているとき、ぬい終わりの針位置は上です。(→P.55)

⑦ 選択模様表示／⑧模様選択スイッチ

スイッチを押してぬいたい模様を選択します。50種類の模様があります。詳細は、「模様を選ぶ」(→P.58)で説明します。

⑨ 模様一覧

00-49までの50模様から模様を選択してください。模様番号の右側には、使用する押えの記号(A・G・J・N・R)が示されています。

1

ぬう前の準備

ここでは、ぬう前に必要な準備を説明します

電源を入れましょう	20
下糸をセットしましょう	22
上糸を通しましょう	29
針を交換するには	35
押えを交換するには	38
筒ものや大きな布をぬう	41

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。
まず、電源について気をつけなければいけないことを説明します。

電源に関する注意

警告

- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - 運転中に停電したとき
 - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - 雷が鳴りはじめたとき
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

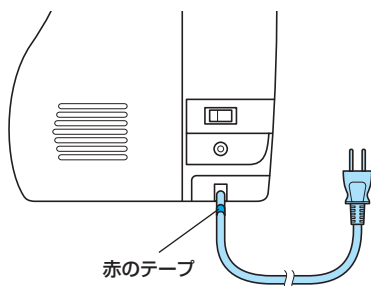
注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室(ミシン119番)」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。
- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

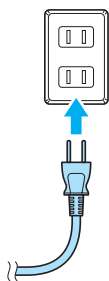
- 1 本体右側面から電源コードを引き出します。

電源プラグを持って引っ張ってください。

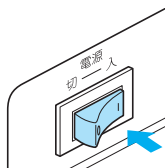


- 電源コードの端には、赤のテープが巻いてあります。この印が見えたら、電源コードをそれ以上引き出さないでください。

- 2 電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。



- 3 本体右側面の電源スイッチの右側 (1側) を押します。



- ▶ 電源が入り、手もとライトと表示パネルのランプが点灯します。

お知らせ

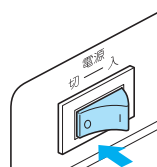
- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

- 1 ミシンが止まっていることを確認します。

- 2 本体右側面の電源スイッチの左側 (0側) を押します。



- ▶ 電源が切れ、ライトが消えます。

- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源プラグを持って抜いてください。

- 4 電源コードを1~5cmほど引いてから手を離します。

- ▶ 電源コードが本体に収納されます。

お願い

- 電源コードをしまうときは、手で電源プラグをしっかり持ち、コードを少し(1~5cmほど)引っ張ってミシン本体の方へゆっくりと戻してください。
- 運転中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。

下糸をセットしましょう

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。
まず、ボビンに関して気をつけなければいけないことを説明します。

ボビンに関する注意

！ 注意

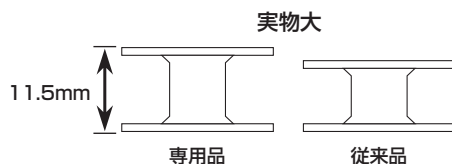


- 必ず専用ボビンをご使用ください。他のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。



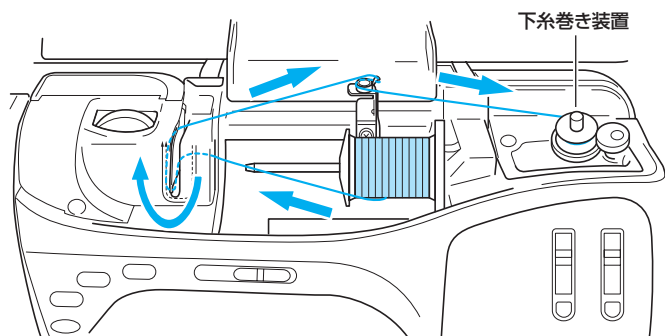
お願い

- 付属のボビンは本機専用のものです。従来品を使用すると、正しく動作しません。必ず付属品、または専用ボビンをご使用ください。



下糸を巻く

下糸用の糸をボビンに巻きます。糸とボビンを用意してください。

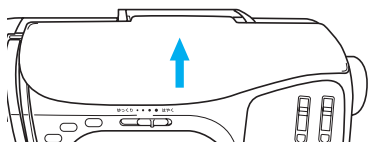
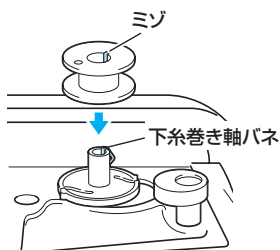
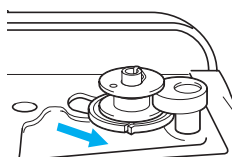
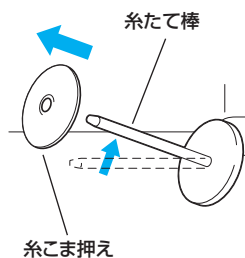


お知らせ

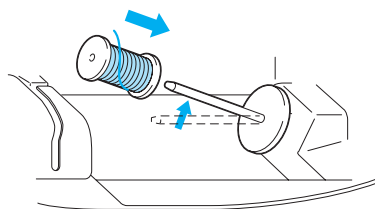
- 下糸を巻くときの糸を通す順番が、本体に点線で示されています。そちらもあわせて見てください。

1 電源を入れます。

- 「電源を入れる」(→ P.21) を参照してください。

2 上ふたを上を開けます。**3** ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを軸に差し込みます。**4** 軸にセットしたボビンを右側に押します。**5** 糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。**6** 下糸用の糸こまを糸たて棒に差します。

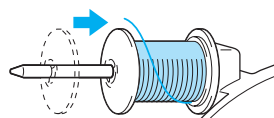
糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差します。



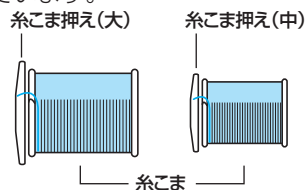
- 正しい向きにセットしないと、糸たて棒に糸がからまる場合があります。

7 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

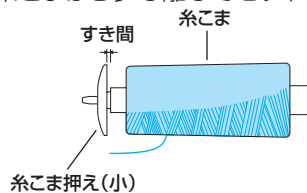
糸こま押えは少し丸みをおびている平らな面を左側にして、糸こまが糸たて棒の右端までいくように右いっぱいまで差し込みます。



- 糸こま押えは大／中／小の3種付属しています。糸こまの直径より大きい糸こま押えを使用してください。購入時は、糸たて棒に糸こま押え(中)がセットされています。



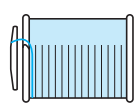
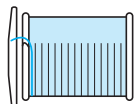
- 綾巻き(チーズ巻き)の糸こまを使用するときは、糸こま押え(小)を使用し、糸こまから少し離してセットします。



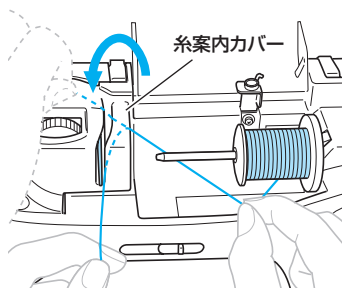
注意



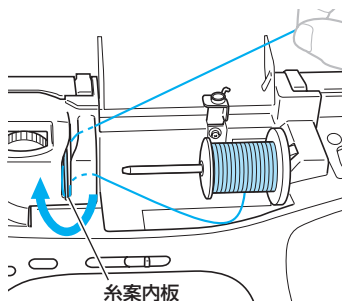
- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや故障の原因となります。
- 糸こま押え大／中／小は糸こまの大きさに合わせてご使用ください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。



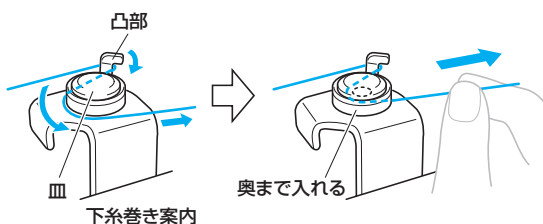
- 8** 糸こまを右手で押さえながら左手で糸を引き出し、糸案内カバーの後ろ側から手前に糸をかけます。



- 9** 糸案内板の右側から下を通して糸をかけます。



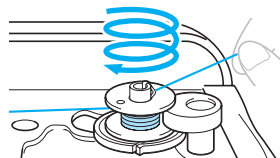
- 10** 糸を右に引いて下糸巻き案内の凸部に向こう側から糸をかけ、皿の間に左回りに糸をかけます。



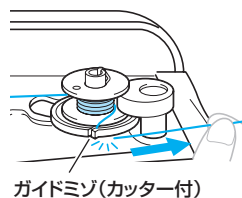
お願い

- 糸が皿の奥までしっかり入っていることを確認してください。奥までしっかり入っていないと、糸をきれいに巻くことができません。

- 11** 下糸巻き案内にかけた糸を左手で押さえ、引き出した糸を右手でボビンに時計回りに4～5回巻き付けます。



- 12** 糸の端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて、右に引きます。



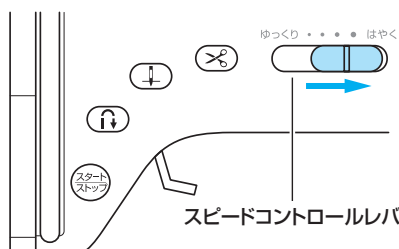
- ▶ 糸が適切な長さで切れます。

！ 注意



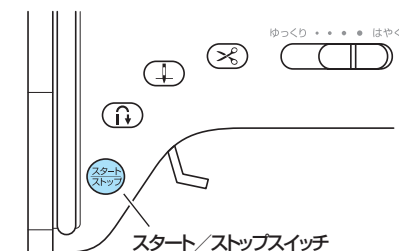
- 必ず前ページの方法で糸を切ってください。ガイドミゾのカッターで糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

- 13** スピードコントロールレバーを右（はやく）に動かします。




- 14**  (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

フットコントローラー(別売)が接続されている場合は、フットコントローラーを踏みます。



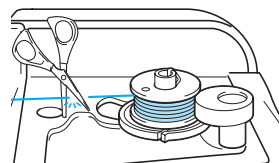
- ▶ ボビンが回転し、下糸巻きがスタートします。
- ▶ 巻き終わるとボビンの回転が止まります。

- 15** ボビンの回転がゆっくりになったら、 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

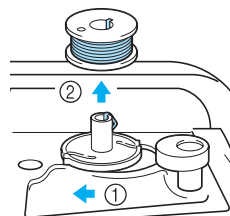
フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。

- ▶ ミシンがストップします。

- 16** 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



- 17** 下糸巻き軸を左に戻し(①)、ボビンを軸から外します(②)。

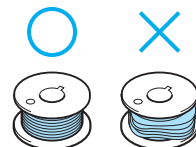


- 18** スピードコントロールレバーをもとに戻しておきます。

！ 注意



- 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと針折れや糸調子不良の原因となります。

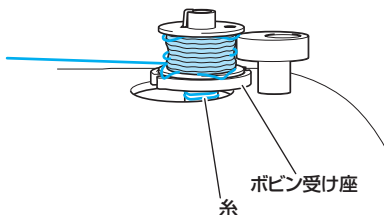


お知らせ

- 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりプーリーを回すと、「ガチャ」という音がありますが、故障ではありません。
- 下糸巻き軸が右側に押された状態のときは、針は動きません。(縫製できません。)

■ ボビン受け座の下に糸がからまってしまったら

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。(→P.24) そうなった場合は、以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。

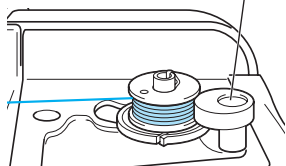



⚠ 注意

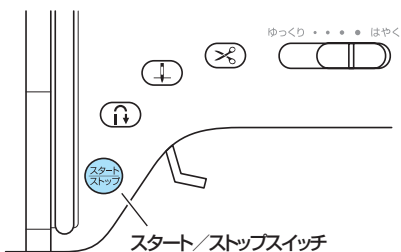


- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでケガをするおそれがあります。
- 糸巻き押えのネジは外さないでください。ミシン故障の原因となります。ネジを外しても、からまった糸をほどくことはできません。

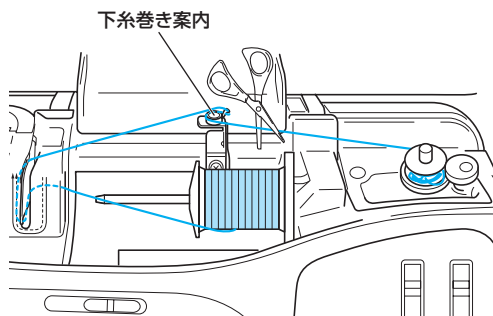
糸巻き押えのネジ



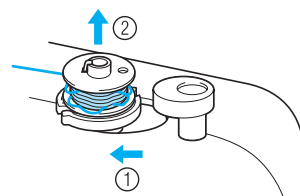
① ボビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、 (スタート/ストップスイッチ) を押して、下糸巻きをストップします。



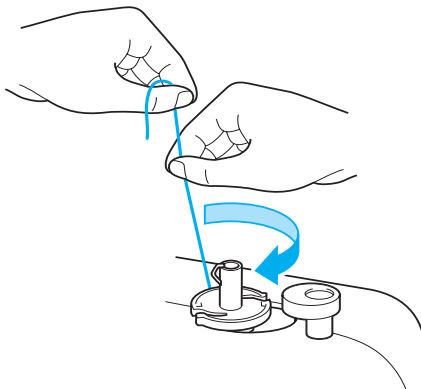
② 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。



③ 下糸巻き軸を左へ戻し (①)、ボビンを軸から外します (②)。



④ 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



⑤ 下糸巻きをやり直します。

お願い

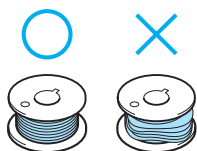
- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。(→P.24)

下糸をセットする

下糸を巻いたボビンを釜にセットします。

注意

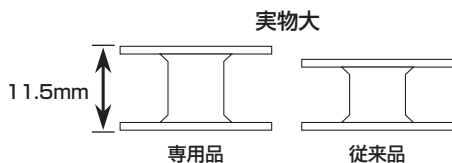
- 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



- **下糸をセットするときや交換するとき、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。**万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

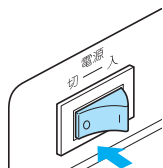
お願い

- 付属のボビンは本機専用のものです。従来品を使用すると、正しく動作しません。必ず付属品、または専用ボビンをご使用ください。

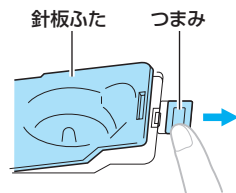


- 1 (針上下スイッチ) を押して針を上へ上げ、押えレバーを上げます。

- 2 電源を切ります。

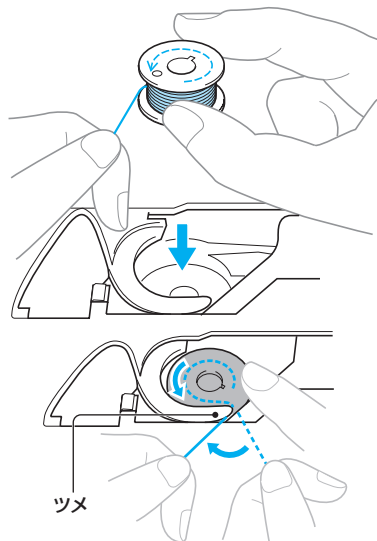


- 3 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かし、針板ふたを取り外します。



▶ 針板ふたが開きます。

- 4 糸が左巻きになるように、右手でボビンを釜に入れ、左手で巻き終わりの糸を図のようにしっかりツメに引っかけた後、ミゾにそって糸を軽く引っ張ります。



- 糸の方向に注意してください。

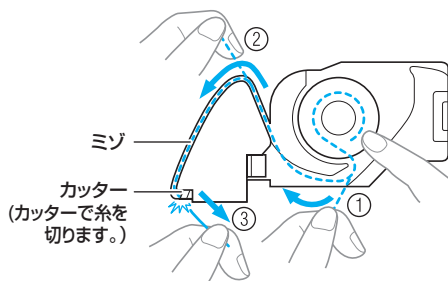
注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

- 5** 図のように、右手でボビンを軽く押さえながら、ミゾにそって糸を通します。(①、②)

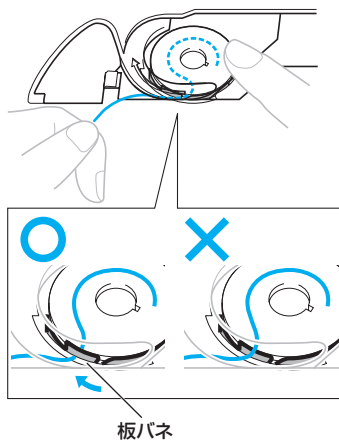
このとき、ボビンが左回りに軽く回ることを確認してください。

そのあと、手前に引きカッターで糸を切ります。(③)



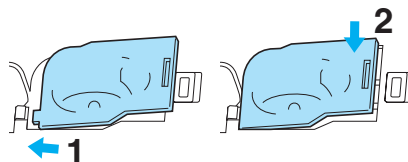
お願い

- 内釜の板バネの間に確実に糸が入っていないと、糸調子不良の原因となります。詳細は、「糸調子を調節する」(→P.50)を参照してください。



- 6** 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。



▶ 下糸のセットが完了します。

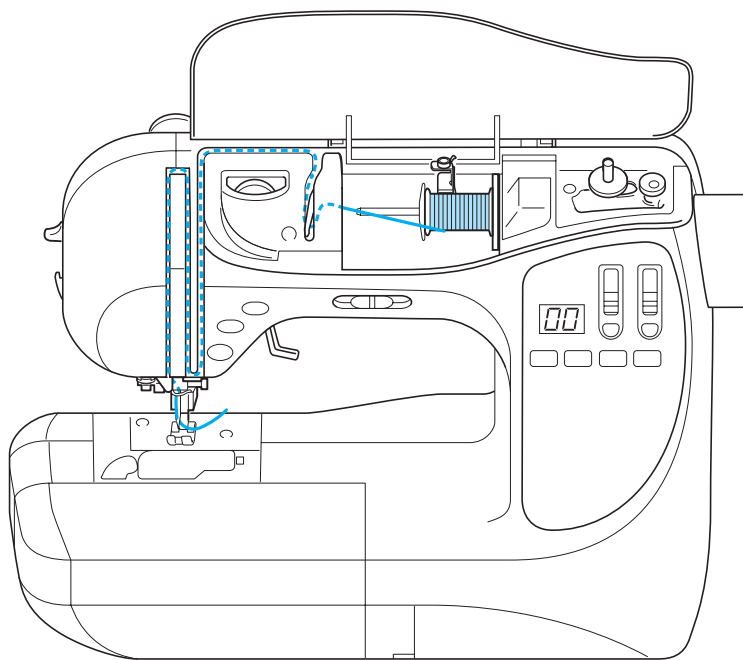
次に上糸を通します。「上糸を通しましょう」(→次ページ)に進みます。

お知らせ

- 下糸は引き出さずに、このままぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、上糸を通してから「下糸を引き出してからぬうとき」(→P.34)を参照してください。

上糸を通しましょう

上糸用の糸をセットし、針に通します。



注意



- 上糸通しは指示に従って、正しく行ってください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



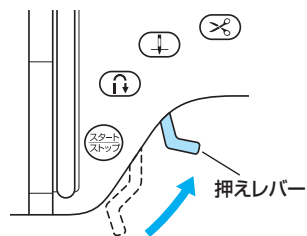
お知らせ

- 上糸を通す順番が、本体に実線(—)で示されています。そちらもあわせて見てください。
- 糸通し装置は、11～16番のミシン針のみに使用できます。
- ウィングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、「手で針に糸を通すとき」(→P.33)を参照してください。

1 電源を入れます。

- 「電源を入れる」(→P.21)を参照してください。

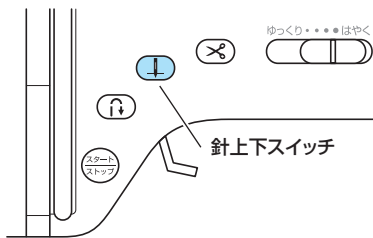
2 押えレバーを上を上げます。



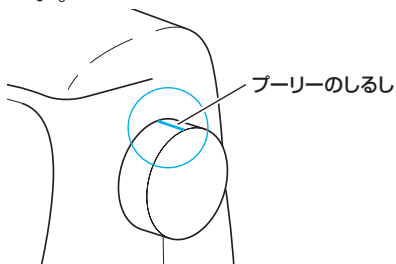
▶ 押えが上がります。

- 押えが下がっていると、上糸を通すことができません。

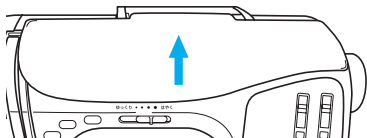
- 3** (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上上げます。



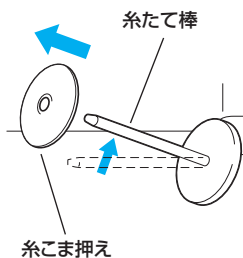
- 針が正しく上がっていないと、上糸を通すことができません。プーリーを確認して、プーリーのしるしが上側になっていない場合は、針上下スイッチを押して針を上げてから、以降の操作をしてください。



- 4** 上ふたを上を開けます。

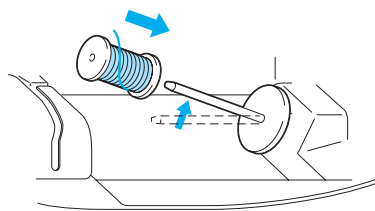


- 5** 糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。



- 6** 上糸用の糸こまを糸たて棒に差します。

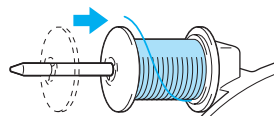
糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差します。



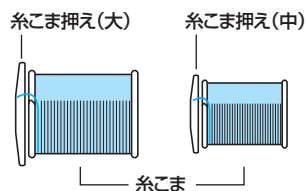
- 正しい向きにセットしないと、糸たて棒に糸がからまることがあります。

- 7** 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

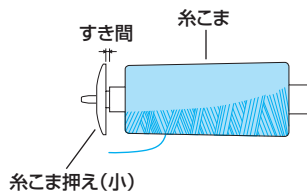
糸こま押えは少し丸みをおびている平らな面を左側にして、糸こまが糸たて棒の右端までいくように右いっぱいまで差し込みます。



- 糸こま押えは大/中/小の3種付属しています。糸こまの直径より大きい糸こま押えを使用してください。購入時は、糸たて棒に糸こま押え(中)がセットされています。

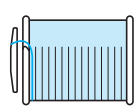
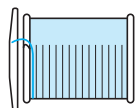


- 綾巻き(チーズ巻き)の糸こまを使用するときは、糸こま押え(小)を使用し、糸こまから少し離してセットします。

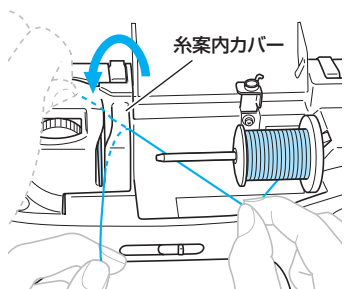


！ 注意

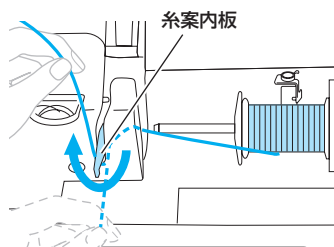
- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや故障の原因となります。
- 糸こま押え大／中／小は糸こまの大きさに合わせてご使用ください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



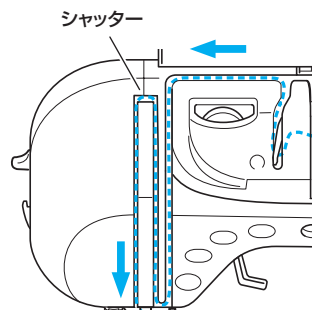
- 8** 糸こまを右手で押さえながら左手で糸を引き出し、糸案内カバーの後ろから手前に糸をかけます。



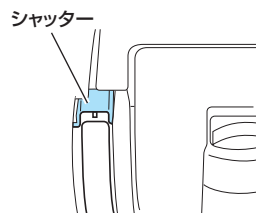
- 9** 糸案内板の右側から下を通して糸をかけます。



- 10** 糸案内板に引っかけた糸を右手で押さえ、ミゾにそって順に糸を通します。

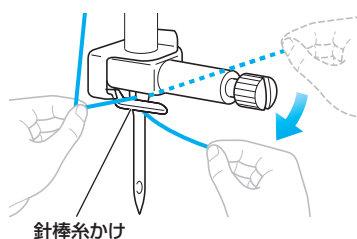


このとき押えが下がっていると図のシャッターが閉まった状態になるため、上糸を通すことができません。必ず押えを上げてシャッターが開いている状態で上糸を通してください。



- 11** 針の根もとにある針棒糸かけに糸をかけます。

図のように、左手で糸を保持し、右手で糸かけを行うと糸がかけやすくなります。

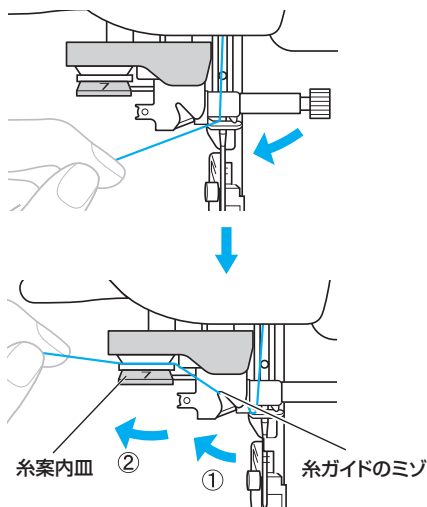


このあと、糸通し装置を使って糸を針に通します。「針に糸を通す」(→次ページ)に進みます。

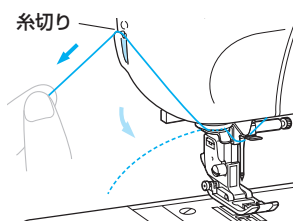
針に糸を通す

糸通し装置は11～16番のミシン針を使うときに使用できます。針についての詳細は「針の種類と使い分け」(→P.35)で説明します。

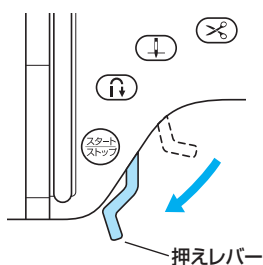
- 1 針棒糸かけにかけた糸の端を左に引き、糸ガイドのミゾに糸をかけます。(①) 糸案内皿のすき間に手前から糸をしっかり奥まで入れます。(②)



- 2 本体左側面の糸切りに糸を引っかけて切ります。



- 3 押えレバーを下に下げます。



▶ 押えが下がります。

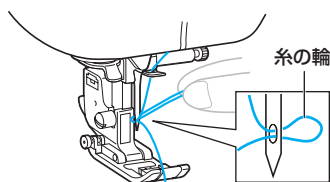
- 4 本体左側面の糸通しレバーを「ガチャ」と音がするまで下げます。



▶ 糸が針穴に通ります。

- 5 糸通しレバーをゆっくりと上に戻します。

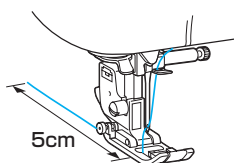
- 6 通った糸の輪の部分をゆっくりと引き、糸の端を引き出します。



注意

- 操作スイッチには触れないでください。操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。
- 無理に引っ張って針を曲げないように注意してください。

- 7** 押えレバーを上へ上げ、糸の端を押えの間に通して後ろ側に5cmほど引き出します。



▶ 上糸のセットが完了します。

これで下糸と上糸の準備ができました。

注意



- 糸通しが正常に行われなかった場合は、手順**1**からもう一度やり直してください。



お願い

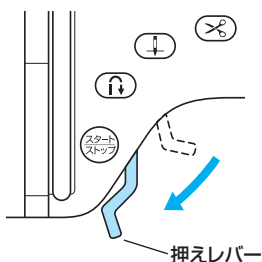
- 針が正しく上へ上がっていないと、糸通し装置で糸を通すことができません。必ず針上下スイッチで針を上へ上げてから操作してください。

■ 手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できないナイロン透明糸やメタリック糸などの特殊な糸、ウィングニードルなどを使用するときは、次の手順で針に糸を通します。

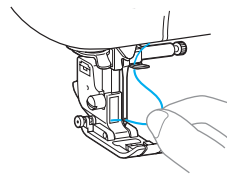
- 1** 「上糸を通しましょう」(→ P.29) の **1** ~ **11** に従って、針棒糸かけまで上糸を通します。

- 2** 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

- 3** 手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。



注意



- **操作スイッチには触れないでください。**操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。

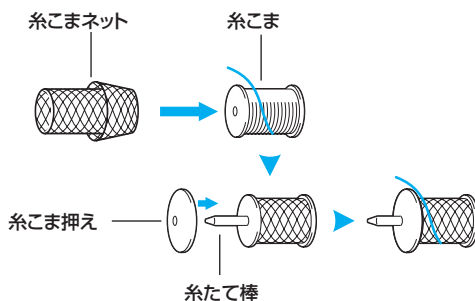
- 4** 押えレバーを上げ、糸端を押えの間に通し、後ろ側へ5cmほど引き出します。

- 5** 上ふたを閉めます。

腰が強い糸を使うとき

ナイロン透明糸やメタリック糸などの腰が強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットします。

ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。



下糸を引き出してからぬうとき

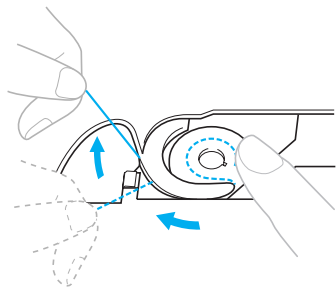
ギャザーやフリーモーションキルトをぬう場合など、あらかじめ下糸を引き出しておくときは、以下の操作を行います。

① ポビンを釜に入れます。

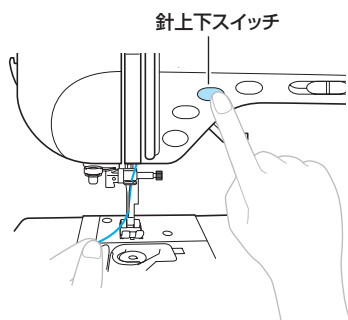
- 「下糸をセットする」 (→ P.27) の
① ~ ④ を参照してください。

② 引き出した糸をミゾにそって通します。

このとき、カッターで糸を切らないでください。

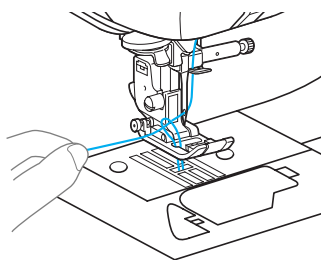


③ 左手で上糸を軽く持ち、 (針上下スイッチ) を2回押します。

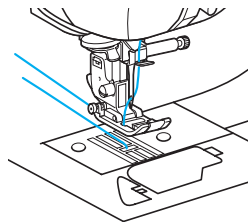


▶ 下糸が針穴から輪になって引き出されます。

④ 上糸をゆっくりと上に引きます。

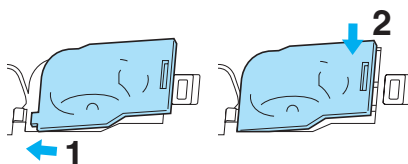


⑤ 下糸を 10cm ほど引き出し、上糸とそろえて押えの下を通します。



⑥ 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。



針を交換するには

ここでは、ミシン針について説明します。
まず、針について気をつけなければいけないことを説明します。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らないと、針が折れて飛び散るなど大変危険です。よく読んで必ず守ってください。

！ 注意



- 針の交換は必ず電源スイッチを切ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。
- 針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）をご使用ください。その他の針を使用すると針折れや故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

針の種類と使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	綿糸	60~90	11~14
	タフタ	合繊糸		
	フラン ギャバシン	絹糸	50	
薄地	ローン	綿糸	60~90	9~11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50	
厚地	デニム	綿糸	30	16
			50	14~16
	コーデロイ	合繊糸	50~60	
ツイード	絹糸			
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50~60	HG針ニット用 11~14
	トリコット			
ほつれやすい布地	綿糸	合繊糸	50~90	9~14
			50	
	絹糸	50		
ステッチ糸の場合	合繊糸・絹糸		30	16
			50~60	11~14

！ 注意



- 布地と糸と針の組み合わせは、前ページの表に従ってください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地(デニム等)を細い針(9~11番)でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。また、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因にもなります。



お願い

- 20番以下の太い糸を使用しないでください。故障の原因となります。



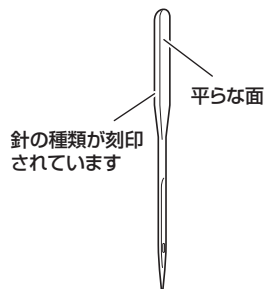
お知らせ

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- HG針ニット用は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地を仕上り良くぬい上げることができます。ブラザー純正「HG 針ニット用#11(金色)」を推奨します。
- ナイロン透明糸は、布地や糸にかかわらず14~16番の針を使用してください。

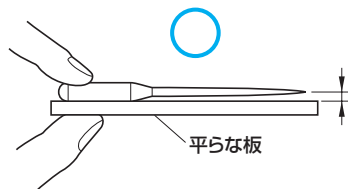
正しい針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。

使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

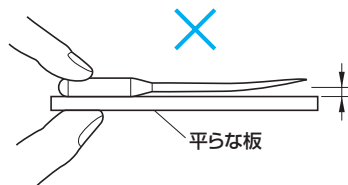


■ 良い針



■ 悪い針

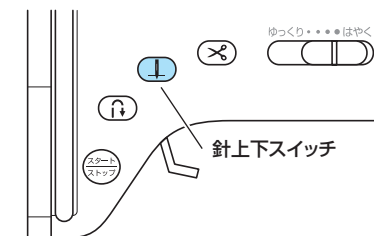
すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。



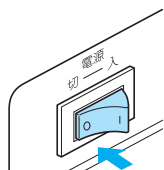
針を交換する

針を交換します。「正しい針の見分け方」で確認したまっすぐな針と付属のドライバーを用意してください。

- 1 (針上下スイッチ) を1回または2回押し、針を上上げます。



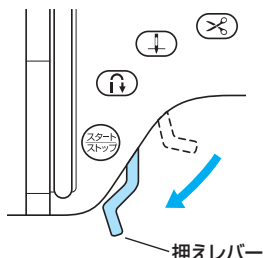
- 2 電源を切ります。



注意

- 針の交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

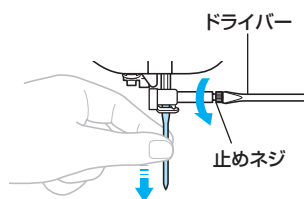
- 3 押えレバーを下に下げます。



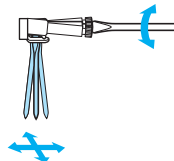
注意

- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

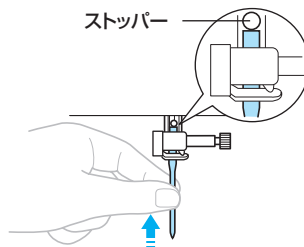
- 4 左手で針を持ちながら、右手でドライバーを手前に回して針の止めネジをゆるめ、針を抜きます。



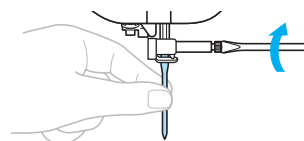
- 止めネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないようにしてください。故障の原因となります。



- 5 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、ストッパーにあたるまで差し込みます。



- 6 針を左手で押さえたまま、ドライバーで止めネジをしめます。



注意

- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、止めネジを付属のドライバーで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジの締め方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換するには

押えとは、布が浮かないように押さえる部品のことをいいます。
まず、押えについて気をつけなければいけないことを説明します。

押えに関する注意

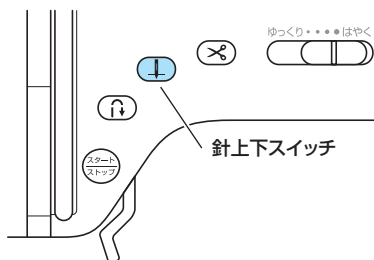
！ 注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず本機専用の押えをご使用ください。その他の押えを使用するとケガ・故障の原因となります。

押えを交換する

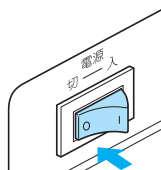
押えの取り外し方と取り付け方を説明します。

- 1 (針上下スイッチ) を1回または2回押し、針を上上げます。



▶ 針が上に上がります。

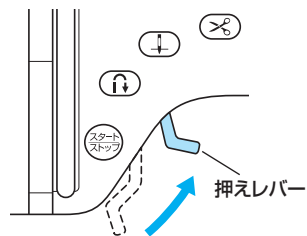
- 2 電源を切ります。



！ 注意

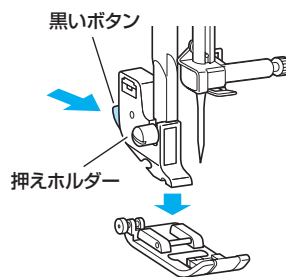
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

- 3 押えレバーを上上げます。



▶ 押えが上がります。

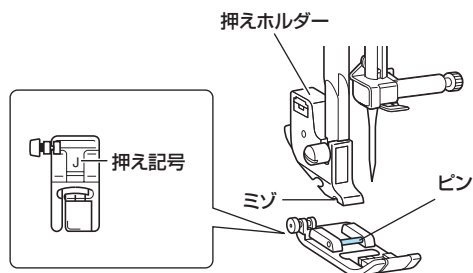
- 4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



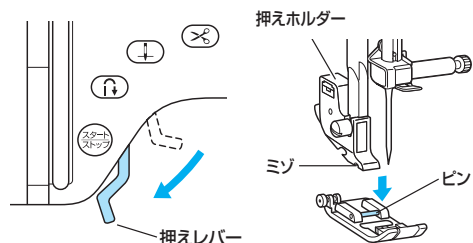
▶ 押えが押えホルダーから外れます。

5 新たに取り付ける押えのピンの部分と押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

押えに記されているA・G・J・N・Rの押え記号が読める向きに置きます。

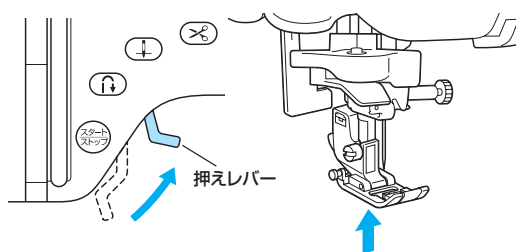


6 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



▶ 押えが取り付けられます。

7 押えレバーを上げて、押えが取り付けられていることを確認します。



押えホルダーを外すとき

お手入れをするときや別売のキルト押えなどを取り付けるときは、押えホルダーを外します。付属のドライバーを用意します。

！ 注意

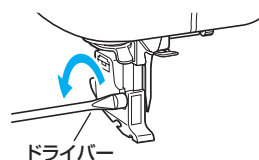
- **押えホルダーは、必ず電源を切ってから取り付け／取り外しを行ってください。万一、スイッチが押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。**

■ 押えホルダーを外すとき

1 押えを外します。

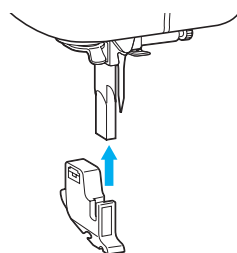
- 「押えを交換する」(→前ページ)を参照してください。

2 ドライバーで押えホルダーのネジをゆるめます。

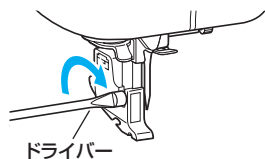


■ 押えホルダーを取り付けるとき

1 押えホルダーを押え棒の左側と下側に合わせます。



- ② 押えホルダーを右手で押さえ、左手でドライバーを回してネジをしめます。



！ 注意



- 押えホルダーの取り付け／取り外しをするときは、指や押えホルダーが針に当たらないようにしてください。針が折れたり、ケガの原因となります。
- 押えホルダーのネジは確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、押えホルダーが外れ、針が押えに当たって折れたり、曲がったりするおそれがあります。



お願い

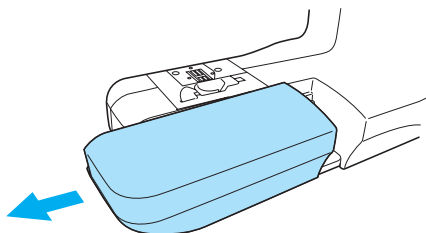
- 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

筒ものや大きな布をぬう

筒ものをぬう

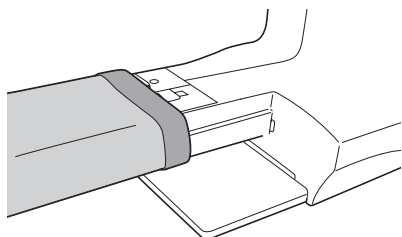
そで口やズボンのすそなどの筒状になっているところをぬうときは、フリーアームを使うと便利です。

- 1 補助テーブルを左に引きます。



▶ 補助テーブルが外れてフリーアームの状態になります。

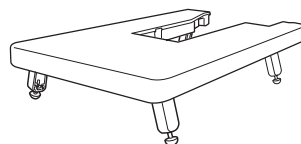
- 2 ぬうところをアーム部分に通して外側からぬいます。



- 3 フリーアームを使い終わったら、補助テーブルをもとに戻します。

大きな布をぬう

大きな作品をぬうときは、別売のワイドテーブルを使用して作業スペースを広げます。

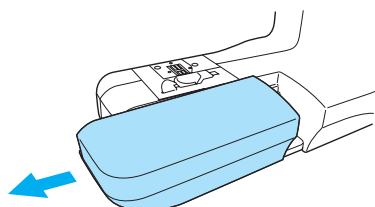


注意



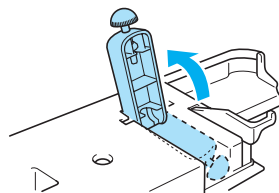
- ワイドテーブルを取り付けたままミシンを移動させないでください。破損やケガの原因になります。
- ワイドテーブルを、アイロン台などの他の目的に使用しないでください。

- 1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



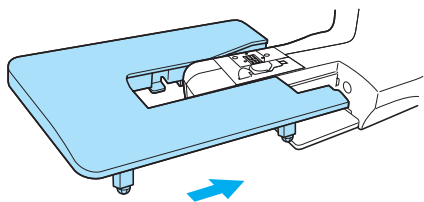
- 2 ワイドテーブル裏面の脚を起こします。

4本の脚をカチッと音がするまで起こします。

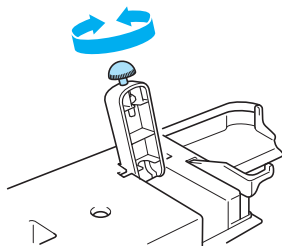


3 ワイドテーブルをミシン本体に取り付けます。

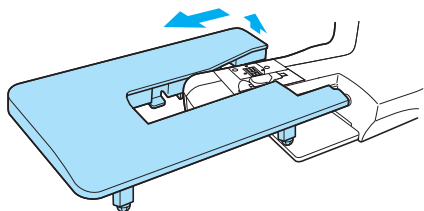
水平にして、ゆっくりと奥まで差し込みます。



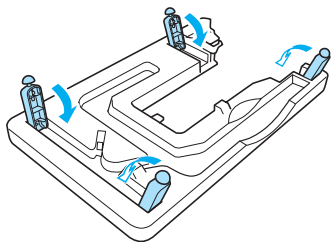
4 脚の先端のゴム足を回して高さを調節します。



5 ぬい終わったら、ワイドテーブルを左へ引いて取り外し、補助テーブルをもとに戻します。

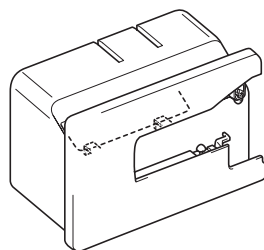


6 ワイドテーブルを裏返し、4本の脚を収納します。



お知らせ

- ワイドテーブルは、脚を収納した状態でハードケースの前面に引っかけて保管することができます。



2

ぬい方の基本

ここでは、基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

ぬってみましょう	44
上手にぬうコツ	50
便利な機能	55

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。
ミシンをかける前に、注意事項を説明します。

！ 注意



- ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、天びんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。



- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えにあたって折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ミシンかけの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1 電源を入れる

ミシンの電源を入れます。
「電源を入れる」(→ P.21) を参照してください。



2 模様を選ぶ

ぬう箇所に合わせた模様を選びます。
模様の詳細は、「模様を選ぶ」(→ P.58) で説明します。



3 押えを取り付ける

模様に合った押えを取り付けます。(必ず電源スイッチを切ってから、押えを交換してください。)
「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



4 布地をセットする

ぬう箇所をミシンにセットします。布地の表・裏や、ぬう順番に注意しましょう。
詳細は「布地をセットする」(→次ページ) で説明します。



5 スタート

ミシンをスタートさせます。
詳細は「ミシンをスタートさせる」(→ P.46) で説明します。



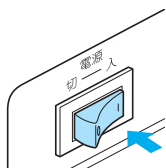
6 糸切り

ぬい終わった糸を切ります。自動で切ることもできます。
詳細は「糸を切る」(→ P.49) で説明します。

布地をセットする

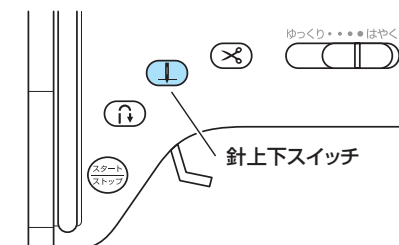
布地の表・裏や、ぬい順番に注意して布地をセットします。

1 電源を入れます。



このとき、模様は「直線(左)」が自動的に選択されます。

2 (針上下スイッチ) を1回または2回押し、針を上上げます。

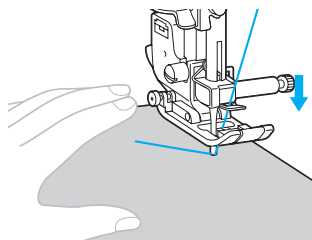


3 押えの下に布地を置きます。

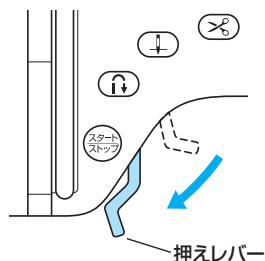
ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

4 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。

返しぬいをする場合は、その分手前の位置に針を刺します。



5 押えレバーを下に下げます。




▶ 布地がセットできました。

ミシンをスタートさせる

準備ができれば、ミシンをスタートさせます。

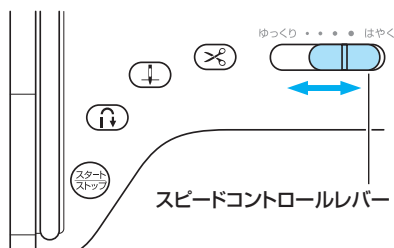
ミシンをスタートさせるには、指で操作する方法と、別売のフットコントローラーを使って足で操作する方法があります。

■ 指で操作する

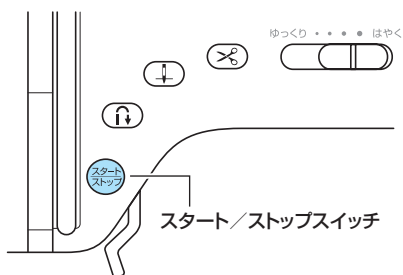
操作スイッチの  (スタート/ストップスイッチ) を押して操作します。

① スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

左にすると遅く、右にすると速くなります。



② (スタート/ストップスイッチ) を 1 回押します。



▶ ミシンがスタートします。

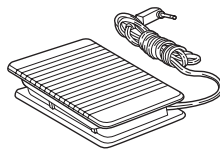
- スタート直後とスタート/ストップスイッチを押し続けている間は、ゆっくり進みます。

③ ぬい終わりまで進んだら、もう一度 (スタート/ストップスイッチ) を 1 回押します。

▶ 針が下がった (布地に刺さった) 状態でミシンが止まります (購入時)。

■ 足で操作する

別売のフットコントローラーを使って足で操作します。

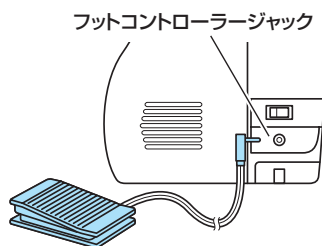


型式：MODEL P

① 電源を切ります。

フットコントローラーを接続するときに、あやまってミシンが動作しないよう、必ず電源を切っておきます。

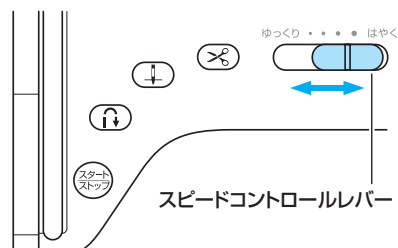
② 本体右側面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



③ 電源を入れます。

④ スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

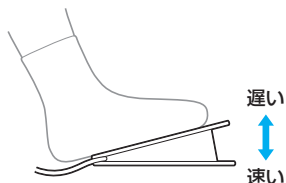
左にすると遅く、右にすると速くなります。



- スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーの最高速度になります。

5 ぬい準備ができれば、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

深く踏み込むと速く、浅く踏むと遅くなります。



- 強く踏むとミシンが速く進んでしまうので注意してください。

▶ ミシンがスタートします。

6 ぬい終わりまで進んだら、踏むのをやめます。

▶ 針が下がった(布地に刺さった)状態でミシンが止まります。

お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれていると、操作スイッチのスタート/ストップスイッチでミシンをスタートさせることはできません。
- ミシンを止めると、針は下がった状態になります。ミシンを止めたときに針が上になるように設定を変更することもできます。詳細は「針停止位置を変更する」(→ P.55)を参照してください。

注意



- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。



- フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。

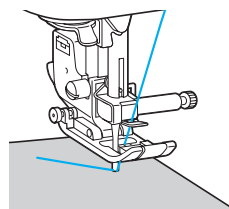


- 長期間で使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災・感電の原因となります。

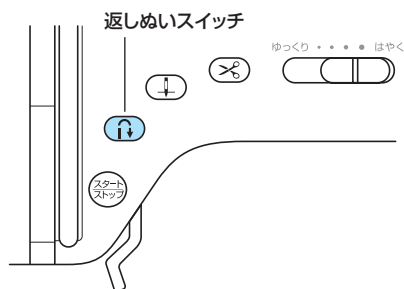
返しぬいをする

他のぬい目と重ならないところやあき止まりなどの直線ぬいのときに、糸の端がほつれないように返しぬいをします。

1 ぬい端から3~5針分手前に針を刺します。




2 (返しぬいスイッチ) を押します。

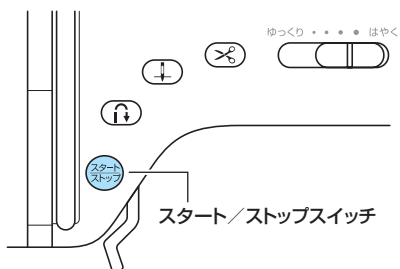


▶ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。

3 3~5針ほどぬったら、返しぬいスイッチから手を離します。

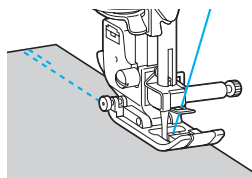
▶ ミシンが止まります。


- 4**  (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。



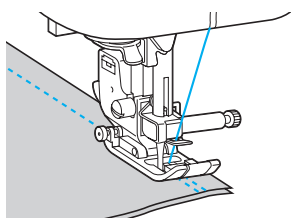
- スタートの手順は、「ミシンをスタートさせる」(→ P.46) を参照してください。


▶ 通常の向きに針が進みます。



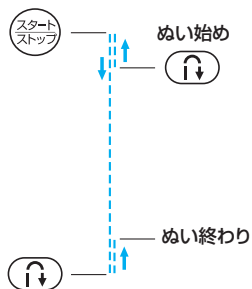
- 5** ぬい終わりまできたら、 (返しぬいスイッチ) を押します。

▶ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。




- 6** 3~5 針ほどぬったら、 (返しぬいスイッチ) から手を離します。

▶ ミシンが止まります。



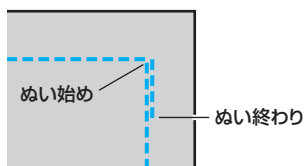
■ 模様をぬうとき

直線・ジグザグ以外の模様でぬっていた場合に  (返しぬいスイッチ) を押すと、止めぬいになります。止めぬいは、その位置で 3~5 針重なります。



■ ぬい始めとぬい終わりが重なる場合

筒ものなどぬい目が 1 周するもの場合は、返しぬいをしないでぬい始めて、1 周したらぬい始めのぬい目に 3~5 針重ねてぬいます。




 **お知らせ**

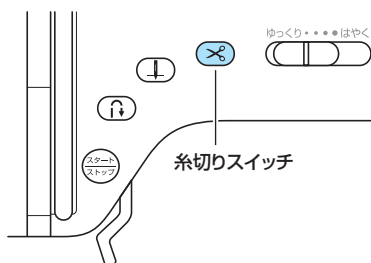
- 返しぬい / 止めぬいを自動で行うこともできます。「自動で返しぬい / 止めぬいをする」(→ P.55) を参照してください。
- 返しぬい、止めぬいのいずれを行うかは、模様によって異なります。「模様設定一覧」(→ P.100) を参照してください。

糸を切る

ぬい終わったら糸を切ります。糸を切るには、2つの方法があります。

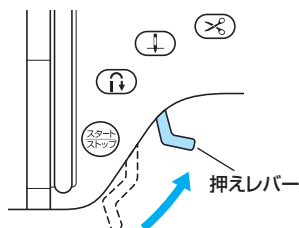
■ 糸切りスイッチ

- 1 ぬい終わった位置で、操作スイッチの  (糸切りスイッチ) を1回押します。



▶ 糸が切れ、針が上に上がります。

- 2 押えレバーを上へ上げて、布地を取り出します。



！ 注意



- 糸を切ったあとは、糸切り操作をくり返し行わないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。




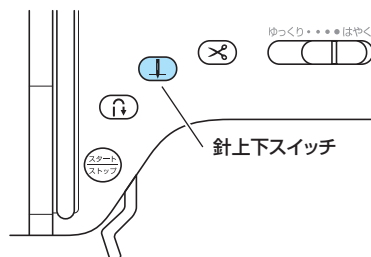
お願い

- 布地が押えの下にない状態やミシンが動いているときは糸切りスイッチを押さないでください。このようにときに糸切りスイッチを押すと、故障の原因となります。

■ 糸切り

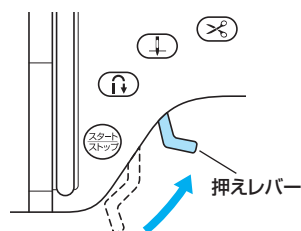
ナイロン糸、メタリック糸などの特殊な糸を使用しているときは、糸切りを使って糸を切ります。

- 1 ぬい終わってミシンを止めたら、 (針上下スイッチ) を1回押します。

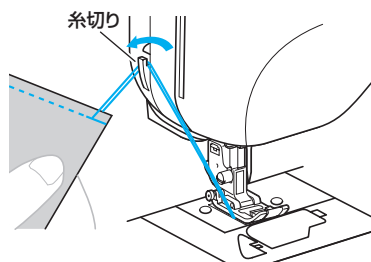


▶ 針が上に上がります。

- 2 押えレバーを上へめます。



- 3 布地を左に引き、本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。



上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ミシンかけをするときの参考にしてください。

糸調子を調節する

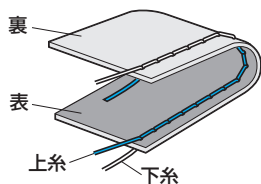
上糸と下糸の強さのバランス(糸調子)を調整します。「針の種類と使い分け」(→P.35)で記載している組み合わせでぬった場合は、自動的に適切な糸調子になります。思い通りの糸調子にならないときや、特殊な糸や素材をぬう場合などは、上糸の調子を強く、または弱くして調節します。上ふた内の、糸調子ダイヤルを使用します。

お知らせ

- 本ぬいをする前に、布の端などで試しぬいをするをお勧めします。

■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸だけが見える状態です。

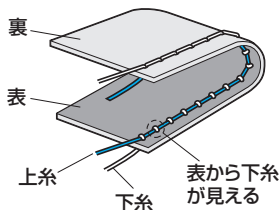


■ 上糸調子が強いとき

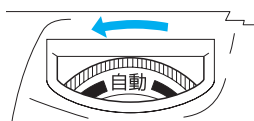
布地の表に下糸が見えている状態です。

お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなる場合があります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。「下糸をセットする」(→P.27)を参照してください。

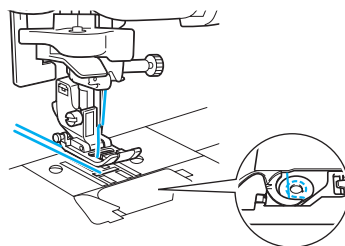


糸調子ダイヤルを左に回し、上糸調子を弱くします。



お願い

- ぬい終わったとき、針板ふたを外して糸が下図のように見えることを確認してください。糸が下図のようにならないときは、内釜の板バネの間に下糸が入っていません。下糸を正しく入れなおしてください。(→P.27)

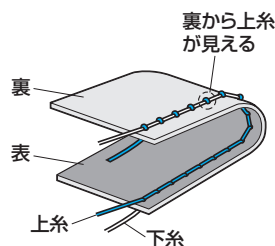


■ 上糸調子が弱いとき

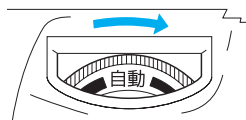
布地の裏に上糸が見えている状態です。

お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。「上糸を通しましょう」(→P.29)を参照してください。



糸調子ダイヤルを右に回し、上糸調子を強くします。



ぬい目の長さ調節する

ぬい目の長さ(1針が進む長さ)と幅(ジグザグの振り幅)を調節します。

通常は、模様を選択すると自動的に適切な長さや幅が設定されます。



お願い

- 模様によって設定できるぬい目の長さや幅が異なります。設定可能な範囲は「模様設定一覧」(→P.100)を参照してください。模様を選択した直後とマニュアルスイッチを押していないときは、模様設定一覧の「自動」の値になります。単位はmmです。

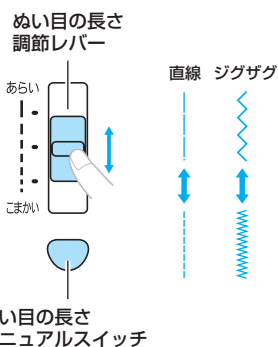
■ ぬい目の長さ

- 1 表示パネルのぬい目の長さマニュアルスイッチを1回押します。

▶ ぬい目の長さマニュアルスイッチが点灯します。

- 2 ぬい目の長さ調節レバーを上下に動かします。

レバーを上にするするとあらかくなり、下にするすると細かくなります。



- 模様にあった適切な値に自動設定するときは、もう一度ぬい目の長さマニュアルスイッチを押します。

! 注意



- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

■ ぬい目の幅

模様の幅(ジグザグの振り幅)を調節します。

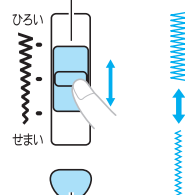
- 1 表示パネルのジグザグの振り幅マニュアルスイッチを1回押します。

▶ ジグザグの振り幅マニュアルスイッチが点灯します。



- 2 ジグザグの振り幅調節レバーを上下に動かします。

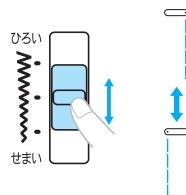
レバーを上にするすると幅が広くなり、下にするするとせまくなります。

ジグザグの振り幅調節レバー



ジグザグの振り幅マニュアルスイッチ

模様が「直線(左)」または「三重ぬい」の場合は、針の位置が調節できます。レバーを上にするすると針位置が右になり、下にするすると左になります。



- 模様にあった適切な値に自動設定するときは、もう一度ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押します。

！ 注意


- 振り幅を調節したときはプリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

試しぬいをする

本機は、布地に合わせて糸や針を選んで模様を選択すると、それに合わせて自動的に糸調子やぬい目の長さ・幅が適切に設定されるようになっています。しかし、布の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをしましょう。

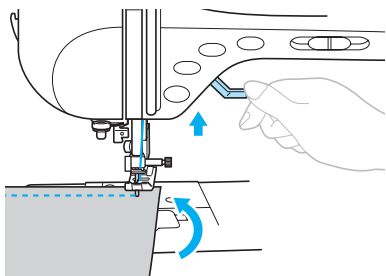
試しぬいは、実際の布地のはざれと糸を使用して糸調子やぬい目の長さ・幅を確認します。ぬい方や布を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

ぬう方向を変える**1** 角までぬったら、ミシンを止めます。

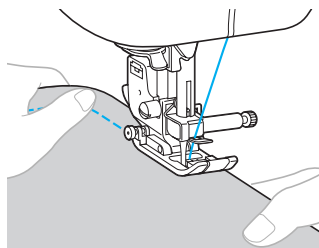
このとき、針が下がった(布地に刺さった)状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、 (針上下スイッチ)を押します。

2 押えレバーを上げ、布を持って回します。

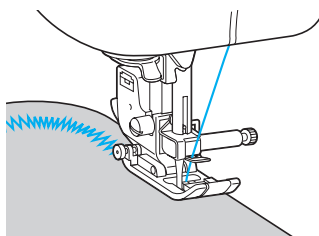
針位置を基点に回転させます。

**3** 押えレバーを下げ、続きをぬいます。**カーブをぬう**

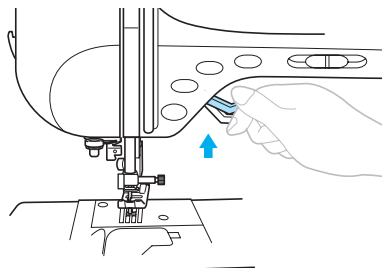
左手で布地の向こう側(ぬい終わった方)を少し引っ張って方向を変えながら進めます。「ぬいしろの幅をそろえる」(→P.54)を参考にして、ぬいしろと平行になるようにゆっくりとぬいます。



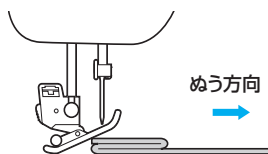
ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。

**厚い布地をぬう****■ 押えの下に布地が入らないとき**

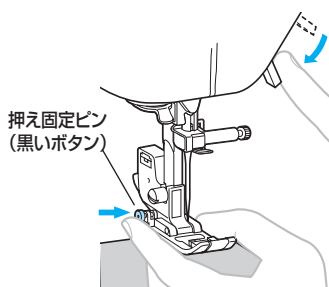
押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



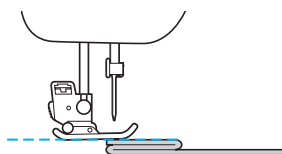
- めい始めに段差があって布地が送らないとき
図のように布地に段差があり、押えが傾いてしまい、布地が送られない場合があります。
その場合は、押え固定ピン（ジグザグ押え <J> 左側の黒いボタン）の機能を使って、押えを水平にしてめうと、スムーズに布地を送ることができます。



- ① 押えレバーを上げます。
- ② めい始めの位置を合わせて、布地をおきます。
- ③ ジグザグ押え <J> を水平に保持して左側の黒いボタンを押したまま、押えレバーを下げます。



- ④ ボタンから手を離します。
- ▶ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。



- ▶ めい進めると、押えはもとに戻ります。

注意

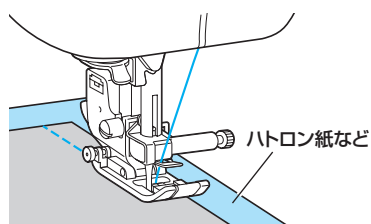


- 6mm以上の厚物をめったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

薄い布地をめう

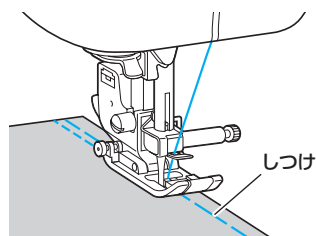
薄い布地の場合、めい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。

その場合は布地の下にハロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にめいます。めい終わったら、紙をやぶいて取り除きます。



伸びる布地をめう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにめいます。



面ファスナー(マジックテープ®)をぬう

注意



- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針や釜に付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針(9～11番)でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

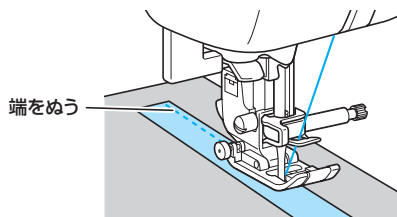


お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。

針が通らない場合は、厚地用の針と糸(→P.35)に交換してください。



お知らせ

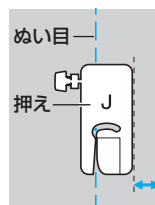
- “マジックテープ®” は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

ぬいしろの幅をそろえる

ぬいしろと平行にまっすぐぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを見ながらぬいます。

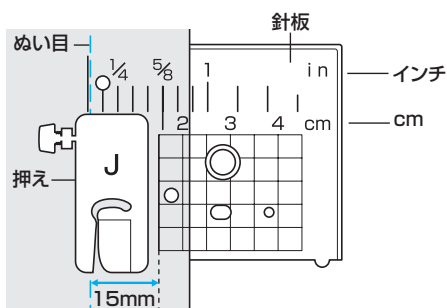
■ 押えを基準にする場合

押えの右端を参考にしてぬいます。



■ 針板を基準にする場合

直線(左)のぬい目の基点から針板は15mm離れています。針板に刻まれている目盛りを参考にしながらぬいます。上側の目盛りは1/8インチ(約3mm)単位、下側の目盛りは5mm単位になっています。




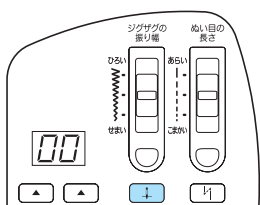
便利な機能

ここでは、覚えておくと役に立つ機能について説明します。


針停止位置を変更する

ぬい終わりの針停止位置を設定できます。針が布に刺さったままか、布から針が抜かれた状態で停止するかを選択できます。

表示パネルの  (針停止位置スイッチ) を押して、どちらかに設定してください。




■ 針停止位置が下のとき

 (針停止位置スイッチ) のライトが点灯

- 購入時は針停止位置は下に設定されています。

■ 針停止位置が上のとき

 (針停止位置スイッチ) のライトが消灯

お知らせ

- 電源が切れているとき、針停止位置は変更できません。

自動で返しぬい／止めぬいをする

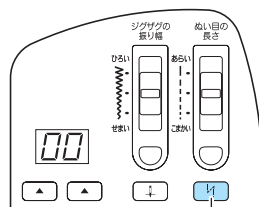
ぬい始めとぬい終わりに自動で返しぬい／止めぬいをするように設定できます。選択した模様によって、返しぬいか止めぬいのいずれかがぬわれます。詳細は、「模様を選ぶ」(→P.58)で説明します。

1 模様を選びます。

- 模様については、「模様を選ぶ」(→ P.58) で説明します。

2 表示パネルの (自動返しぬい／止めぬいスイッチ) を押します。


ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

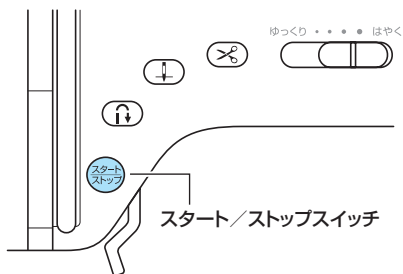


自動返しぬい／止めぬいスイッチ


- ▶ 自動返しぬい／止めぬいスイッチが点灯します。

- 自動返しぬい／止めぬいスイッチをもう一度押すと、自動返しぬい／止めぬいは解除されます。

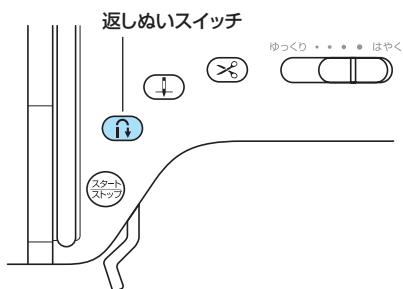
- 3** 布地をセットし、 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。



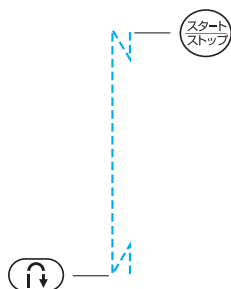
▶ 返しぬい/止めぬいをしてから、ぬい始めます。

- 4** ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) を1回押します。



ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。



▶ 返しぬい/止めぬいをしてから、ミシンが止まります。



お願い

- ぬっている途中で  (スタート/ストップスイッチ) を押したときは、自動で返しぬい/止めぬいはしません。ぬい終わりで  (返しぬいスイッチ) を押してください。

3

いろいろなぬい方

ここでは、いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

ぬい方を選びましょう	58
ぬいしろを始末する	60
地ぬいをする	64
すそ上げをする	66
ボタン穴かがりをする	69
ファスナーを付ける	75
伸びる布地やゴムテープをぬう	80
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう	82
丈夫にしたいところをぬう	88
はとめ穴を作る	91
飾りぬいをする	92

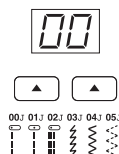
ぬい方を選びましょう

ぬう模様を選択します。

模様を選ぶ

表示パネルのスイッチで模様を選択します。電源を入れた直後は、「直線 [左]」が選択されています。

模様番号の右側には、使用する押えの記号 (A・G・J・N・R) が示されています。



1 使用する模様を決めます。

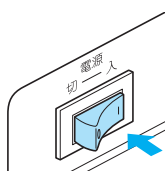
2 選んだ模様合った押えを用意します。

押えは補助テーブルに収納されています。

3 押えを取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→ P.38) を参照してください。

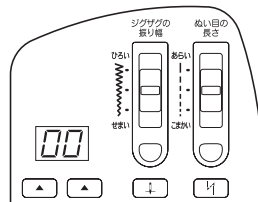
4 電源を入れます。



▶ 電源を入れた直後は、「00」が表示されます。

5 模様選択スイッチ を押しま
す。選択した模様の番号が表示されま
す。

を押すたびに、表示される番号は1
つずつ大きくなります。右側の で
1の桁、左側の で 10の桁を別々
に操作します。1の桁は「9」の次、
10の桁は「4」の次に、それぞれ「0」
に戻ります。



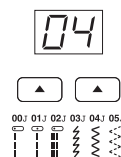
▶ 模様が選択されます。

6 お好みで自動返しぬい / 止めぬい設定
やぬい目の長さなどを設定します。

- 各模様のぬい方はそれぞれのページを参照してください。

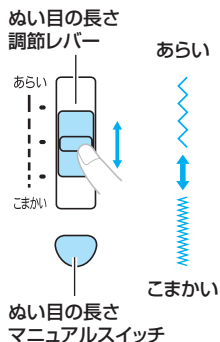
■ 例 : ^{04J}
 模様を選択する

1 右側の模様選択スイッチ で「4」、
左側の模様選択スイッチ で「0」
を選択します。



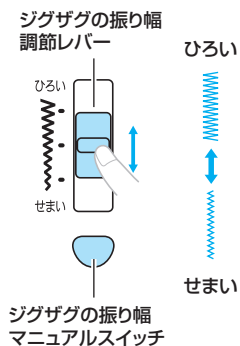
② ぬい目の長さ調節レバーを動かして、ぬい目の長さを調節します。

ぬい目の長さマニュアルスイッチを押してから、ぬい目の長さ調節レバーを動かしてください。



③ ジグザグの振り幅調節レバーを動かして、ジグザグの振り幅を調整します。

ジグザグの振り幅マニュアルスイッチを押してから、ジグザグの振り幅調節レバーを動かしてください。



お知らせ



- 模様のぬい目の長さや幅を調節する場合は、「ぬい目の長さと幅を調節する」(→ P.51)を参照してください。

ぬいしろを始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりに使用できる模様は、全部で5模様あります。使用する押えごとにぬい方を説明します。

たち目かがり押え<G>を使ったたち目かがり

次の2模様を選択したときは、たち目かがり押え<G>を使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	06G 	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5~5.0	2.0	1.0~4.0	G
	07G 	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0		2.5		

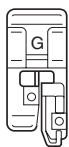
注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**

1 たち目かがり押え<G>を取り付けます。

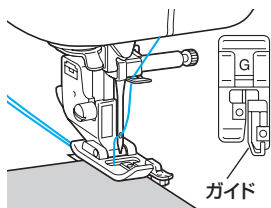
- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



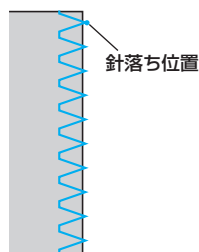
2 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

3 押えのガイドと布端が合うように布地をセットし、押えを下げます。






4 布端を押えのガイドに沿わせてぬいませす。



5 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり

次の3模様を選択したときは、ジグザグ押え<J>を使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ	04J 	通常のほつれ止め	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	J
3点ジグザグ	05J 	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	
たち目かがり	08J 	伸びる布地のほつれ止め		0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	

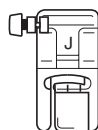
注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

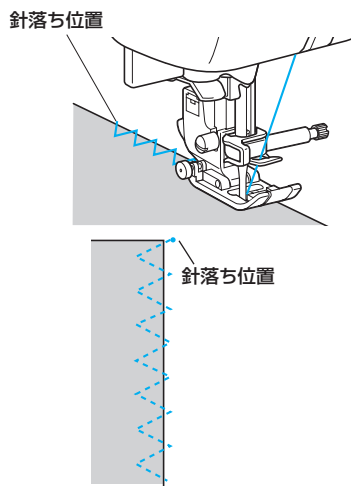
- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



2 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

3 布端より少し外側に針を落としてぬいめます。



いろいろなぬい方

ぬいしろを始末する

サイドカッター押え<S>(別売)を使ったたち目かがり

別売のサイドカッター押え<S>を使用して、布端を切りながらぬいしろを始末することができます。サイドカッター押え<S>が使用できるのは、次の4模様です。

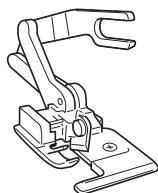
サイドカッター押え<S>を使用するときは、必ず以下の設定値の範囲内で行ってください。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線[左]	00J —	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0~2.5	2.5	0.2~5.0	S
たち目かがり	06G W	布地を切りながら薄地・普通地のほつれ止め	3.5	3.5~5.0	2.0	1.0~4.0	
	07G W	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0		2.5		
ジグザグ (キルト用)	36J Z	布地を切りながらジグザグ	3.5	1.4	0.0~4.0		

注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。



お願い

- サイドカッター押えを使用するときは、手で針に糸を通すか(→P.33)、サイドカッター押えを取り付ける前に糸通し装置で糸を通してください。

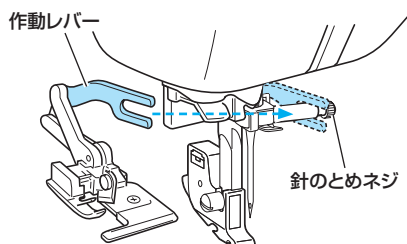
1

押えを取り外します。

- 「押えを交換する」(→P.38)を参照してください。

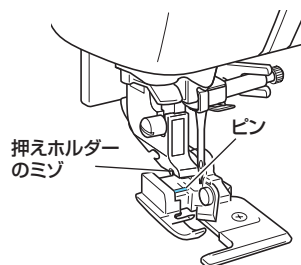
2

サイドカッター押え<S>の作動レバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒を後ろからはさみます。



3

サイドカッター押え<S>のピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押え<S>を置き、押えレバーをゆっくり下げます。

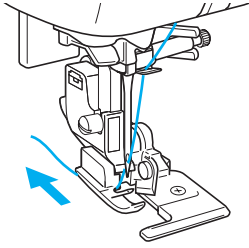


- ▶ サイドカッター押え<S>が取り付けられます。

4

押えレバーを上げて、サイドカッター押え<S>が取り付けられていることを確認します。

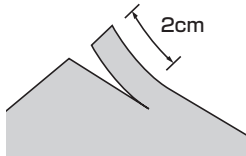
- 5** 上糸はサイドカッター押え<S>の下を通して、後ろ側に引き出します。



- 6** 模様を選択します。

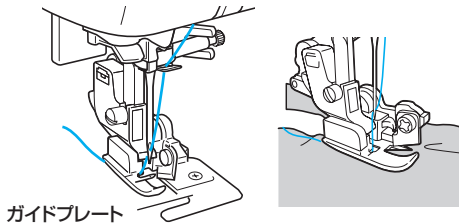
- 「模様を選ぶ」 (→ P.58) を参照してください。

- 7** 布地のぬい始めの部分に2cmの切り込みを入れます。



- 8** 布地をセットします。

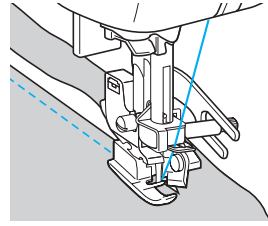
布地の切り込みを入れた部分を、サイドカッター押え<S>のガイドプレートの上に置きます。



お知らせ

- 布地を正しく置かないと、布地が切れません。

- 9** 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬいしろを裁断しながらぬっていきます。

お知らせ

- サイドカッター押え<S>で切れる布地の厚さは、13 オンスデニム 1 枚程度までです。
- サイドカッター押え<S>を使用したあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
- 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押え<S>の刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

地ぬいをする

基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の3模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線[左]	00J 	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／返しぬい）	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	J
直線[中]	01J 	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（中基線／返しぬい）	3.5				
三重ぬい	02J 	ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき	0.0			1.5~4.0	

注意



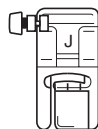
- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**

地ぬい

1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で留めます。

2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

4 プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。

5 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。

- 「ミシンをスタートさせる」(→ P.46) を参照してください。
- 返しぬいをする場合は、「返しぬいをする」(→ P.47) を参照してください。

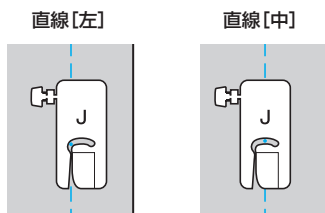
6 ぬい終わったら、糸を切ります。

- 「糸を切る」(→ P.49) を参照してください。

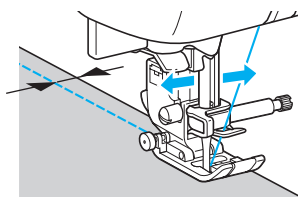
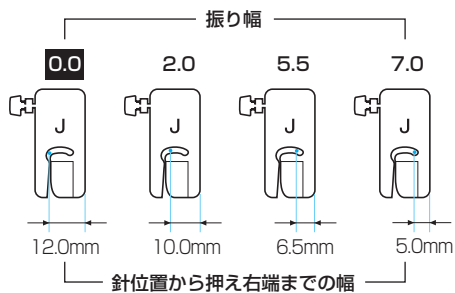


■ 針位置を変えるとき

直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。



直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置が変更されます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



お知らせ

- 「ぬい目の長さ調節する」(→P.51)を参照してください。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の2模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
まつりぬい	09R 	普通地のまつりぬい	0.0	3←→3	2.0	1.0~3.5	R
	10R 	伸びる布地のまつりぬい					

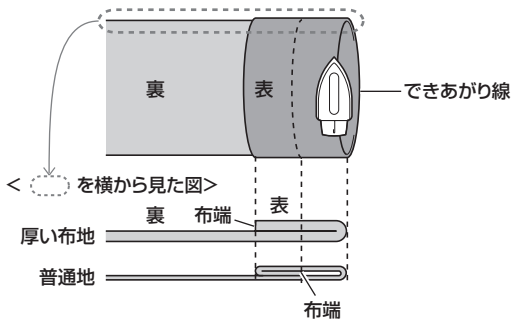
注意

- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。** 万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

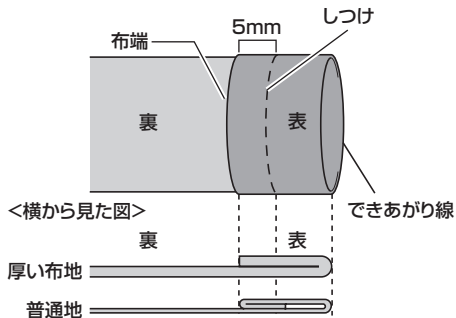
1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



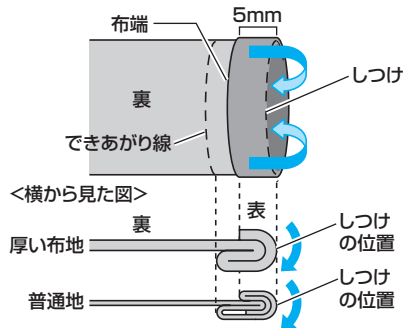
2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



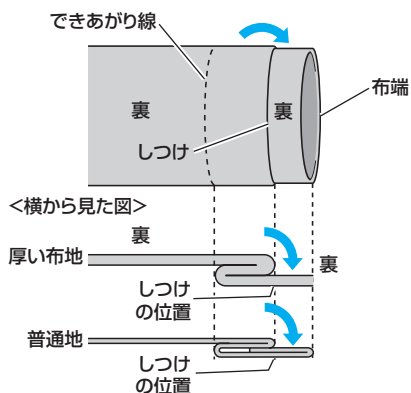
3 布端から約5mmのところをチャコペンで印をつけ、しつけをします。



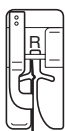
4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



5 布端を開いて裏返します。



6 まつりぬい押え<R>を取り付けます。



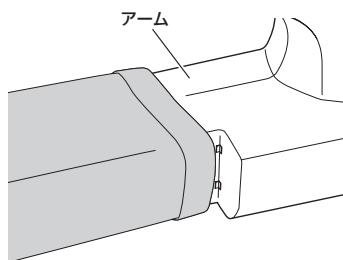
7 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.58) を参照してください。

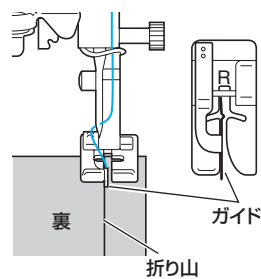
8 ミシンをフリーアームにします。

- 「筒ものや大きな布をぬう」 (→ P.41) を参照してください。

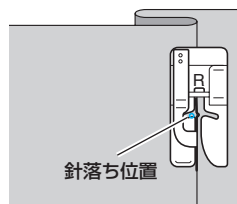
9 アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。



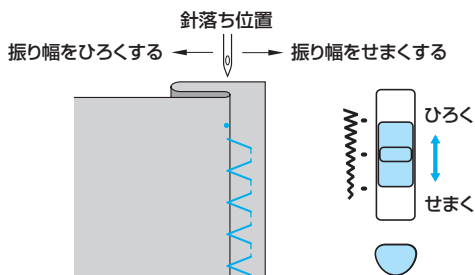
10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



11 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。



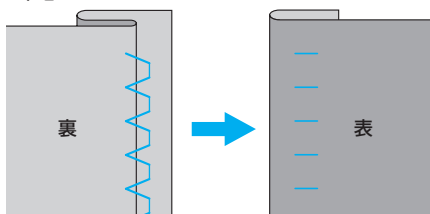
針落ち位置を変更するときは、針を上げてからジグザグの振り幅を変更します。



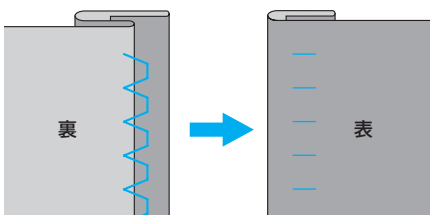
■ 針がかかりすぎているとき

針が左側にいきすぎています。
針位置を右に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。

厚い布地



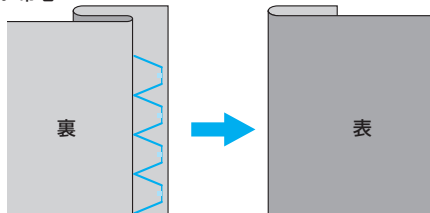
普通地



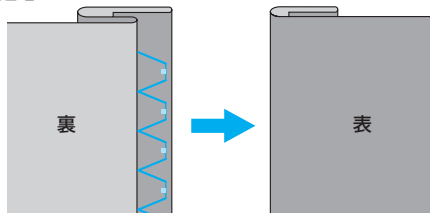
■ 針がかかっていないとき

針が右側にいきすぎています。
針位置を左に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。

厚い布地



普通地



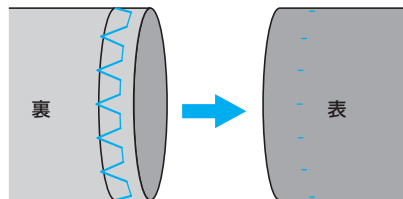
お願い

- 「ぬい目の長さとお幅を調節する」(→P.51)を参照してください。

12 折り山に押えのガイドに沿わせてぬい
ます。

13 ぬい終わったらミシンを止め、針と押
えを上げて、布地を後ろに引いて取り
出します。

14 しつけをほどこき、布地を表に返しま
す。



ボタン穴かがりをする

ボタン穴を作ります。ボタン穴は、用途に合わせて次の5模様から選択します。

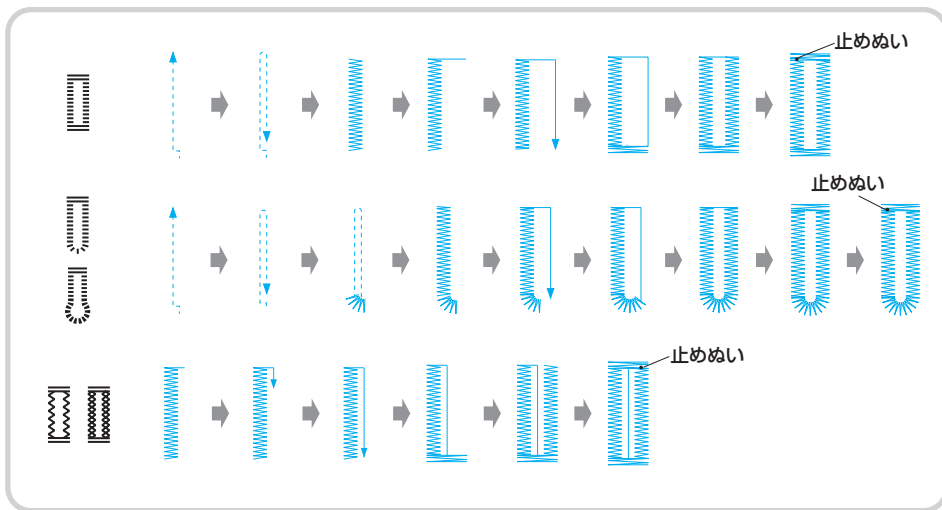
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ボタン穴かがり	26A 	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	A
	27A 	張りのある素材の両止め用					
	28A 	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0~6.0	1.0	0.5~2.0	
	29A 	伸びる布地用			1.5	1.0~3.0	
	30A 	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	

注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**

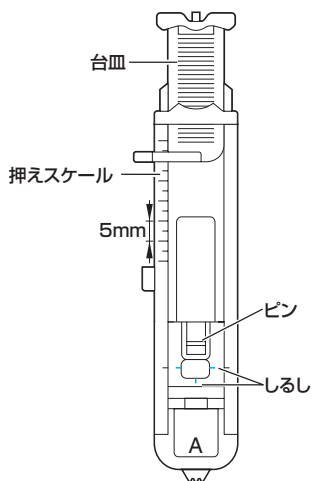
「ボタンの直径+厚み」が約28mm以下のボタン穴を作ることができます。
 ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬっていきます。



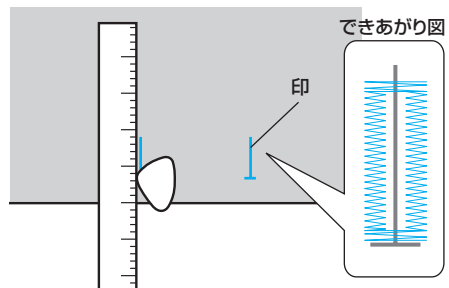
お知らせ

- ボタン穴かがりをするときには、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しぬいをしましょう。

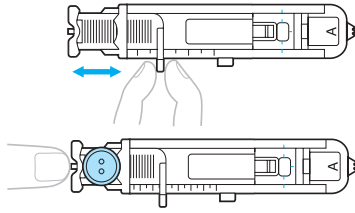
ボタン穴かがりで使用する、ボタン穴かがり押え<A>の各部の名称は、次のとおりです。



- 1 ボタン穴かがりをする位置に、チャコペンなどで印を付けます。

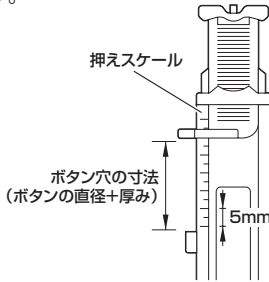


- 2** ボタン穴かがり押え<A>の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。

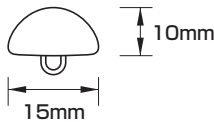


ボタンが台皿にのらないとき

「ボタンの直径+厚み」を、押えスケールの目盛り(1目盛り5mm)に合わせて、ボタンホールの大きさを決めます。



[例] 直径15mm、厚み10mmのボタンの場合
→スケールを25mmに合わせる



▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

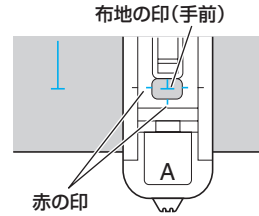
- 3** ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。

- 4** 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

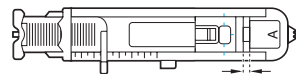
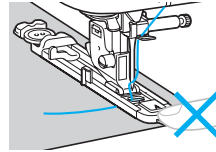
- 5** 押えの赤の印と布地の印の手前側を合わせ、押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

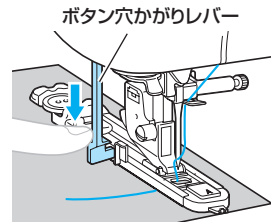
お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押しさないでください。ボタン穴かがりを正確な大きさにぬえません。



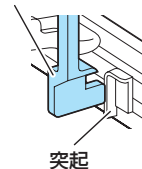
すきまをなくさない

- 6** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

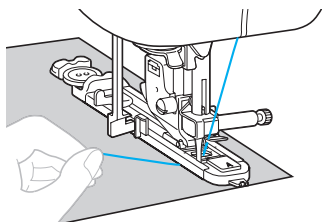


ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



- 7** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ 後ろに向かってぬっていきます。ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 8** ☒ (糸切りスイッチ) を1回押します。

▶ 糸が切れ、針が上へ上がります。

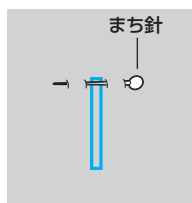
押えを上げて布地を取り出します。

お知らせ

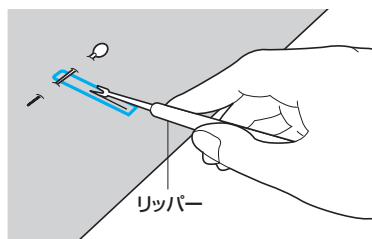
- ミシン本体左側面の糸切りやはさみを使って糸を切る場合は、⊕ (針上下スイッチ) を押して針を上げ、押えを上げて布地を取り出し、糸を切ります。「糸を切る」(→P.49)を参照してください。

- 9** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

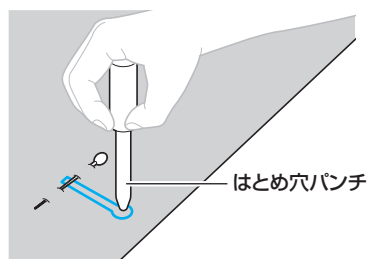
- 10** ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



- 11** 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



お願い

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いてください。

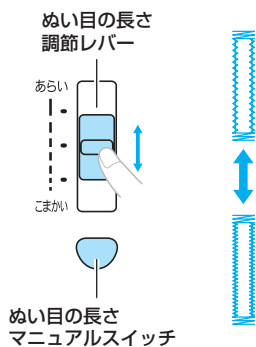
注意



- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをされるおそれがあります。

■ めい目のあらさを変えるとき

めい目の長さを調節します。

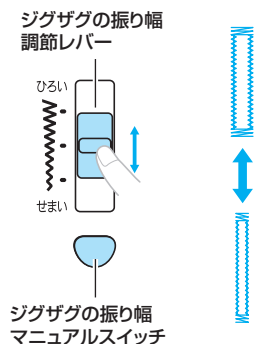


お知らせ

- 「めい目の長さとお幅を調節する」(→P.51)を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、めい目をあらくします。

■ 振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



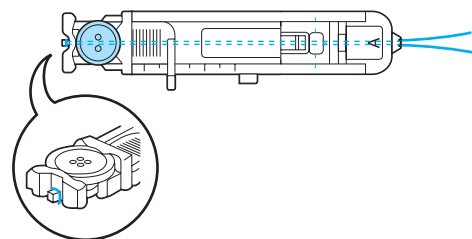
お知らせ

- 「めい目の長さとお幅を調節する」(→P.51)を参照してください。

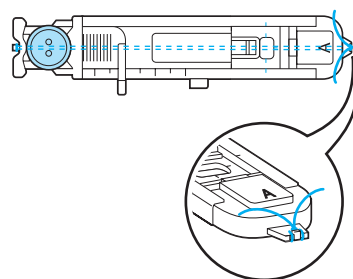
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするとき、芯ひもを入れてぬいます。

- 1 ボタン穴かがり押え <A> の図の部分に芯ひもをかけます。





- 2 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



- 3 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

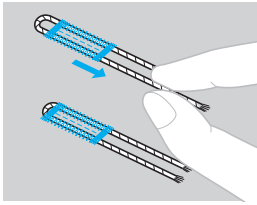
- 「押えを交換する」(→P.38)を参照してください。

- 4 模様  または  を選択します。

- 5 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- 6 押えレバーとボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

- ⑦ ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。



- ⑧ 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

ファスナーを付ける

ファスナーをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線[中]	01J 	ファスナー付け、おとしミシン、ピンタック	3.5	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	I

注意

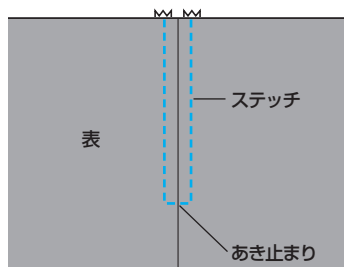


- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**

ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

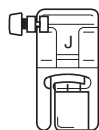
つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。

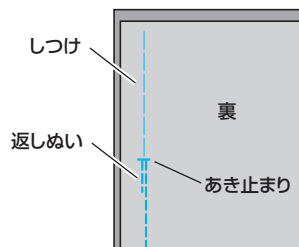


2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

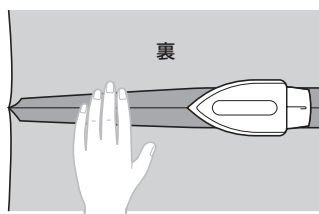
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- 「地ぬいをする」(→ P.64) を参照してください。

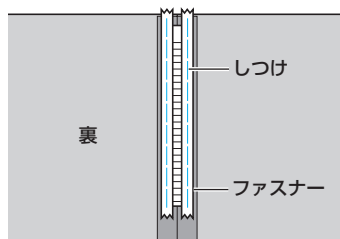
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



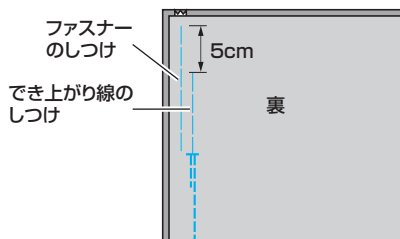
4 めいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 めい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。

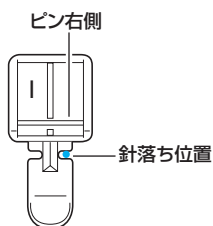


- 6** でき上がり線のしつけを布端から5cm程度ほどきめます。



- 7** 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



- 8** 模様  を選択します。

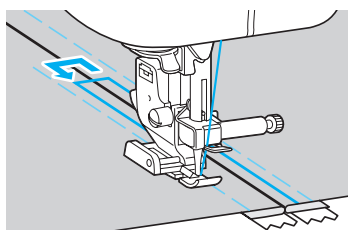
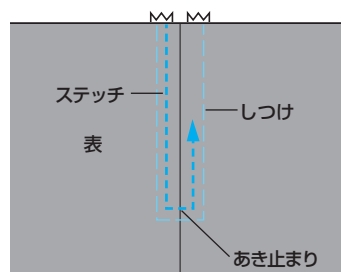
- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

! 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9** 布地の表からステッチをかけます。

ファスナーのスライダーが押えに当たる場合は、スライダーを何回か動かしながらステッチをかけます。



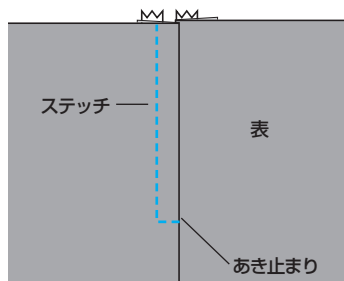
! 注意

- めう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10** しつけをほどきます。

片返し

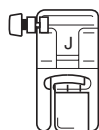
布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーのときに使用します。



ここでは、脇ファスナーの場合を例に説明します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。

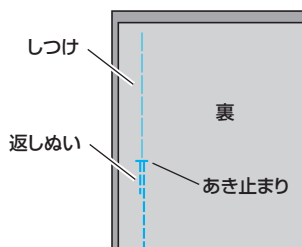


2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

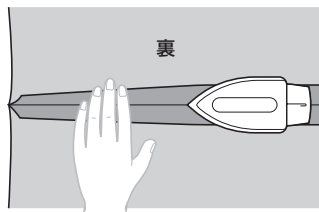
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- 「地ぬいをする」(→ P.64) を参照してください。

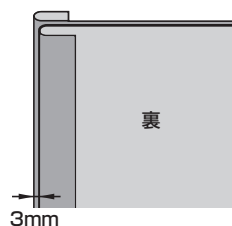
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



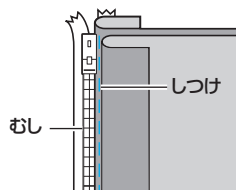
4 めいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 右側(ステッチが入らない方)のめいしろを3mm出してアイロンをかけます。



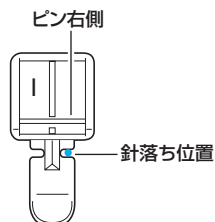
6 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で留めます。




- 7** 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

例と反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



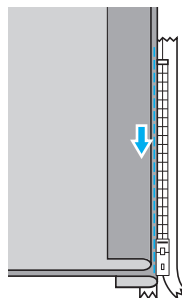
- 8** 模様  を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

! 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線[中]を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9** 3mm出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

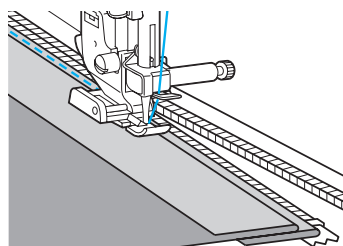


! 注意

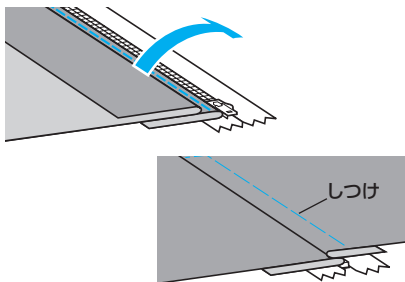
- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10** 残り5cmほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 11** ファスナーを開いて続きをぬいます。

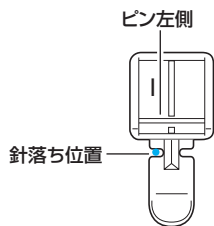


- 12** ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



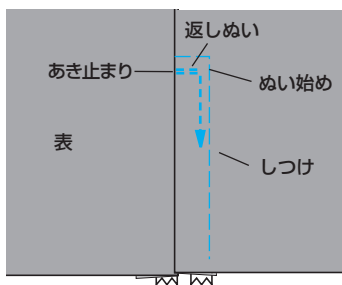
- 13** 片押え <I> のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

7 で右側に取り付けた場合は、左側に取り付けます。



- 14** 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてぬいます。



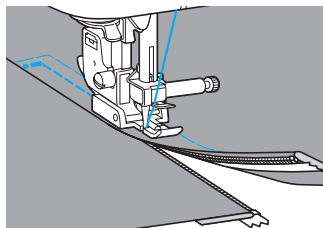
注意



- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 15** 残り5cmほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 16** でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



伸びる布地やゴムテープをぬう

伸びる布地をぬったり、ゴムテープをぬい付けたりします。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
伸縮ぬい	03J 	伸びる布地	1.0	1.0~3.0	2.5	1.0~4.0	J
3点ジグザグ	05J 	ゴムテープ付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	

！ 注意

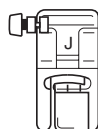



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**

伸縮ぬい

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

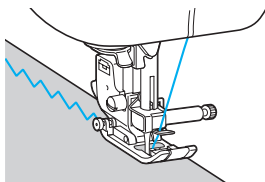
- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



2 模様  を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

3 布地を伸ばさないようにぬいます。

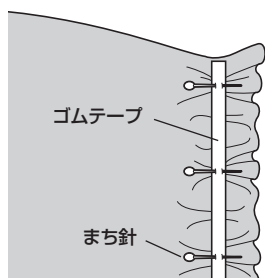


ゴムテープ付け

そで口やウエストなどにゴムテープをぬい付ける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

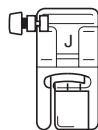
1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるように数か所留めます。



2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。

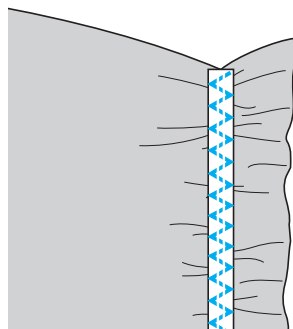
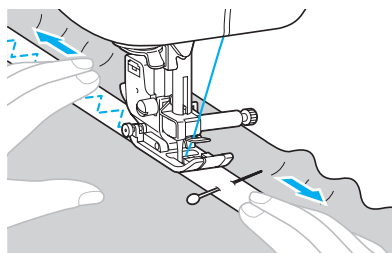


3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



注意



- めう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。
キルトをぬうときは、フットコントローラー（別売）を使用すると便利です。フットコントローラーの使い方については、「ミシンをスタートさせる」（→P.46）を参照してください。

名称	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
		自動	手動	自動	手動	
ジグザグ	 04J アップリケ布のぬい付け（中基線／返しぬい）	3.5	0.0～7.0	1.4	0.0～4.0	J
	 36J アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい					
アップリケ	 11J アップリケ布のぬい付け		2.5～5.0	2.5	1.6～4.0	
	 37J  38J アップリケ、バインディング	1.5	0.5～5.0	1.2	1.0～4.0	
 34J ピーシング用直線 （押え左端から6.5mmのぬいしろ）	1.5	0.0～7.0				
つき合わせ	パッチワーク	4.0	2.5～7.0	2.5	1.0～4.0	
		手ぬい風直線	 35J 手ぬい風キルト直線	0.0	0.0～7.0	
キルティング模様	 39J キルトの背景ぬい					7.0

！ 注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**



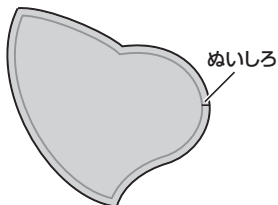
お知らせ

- 模様の右下に「Q」と表示されている模様はキルティング用、「P」はピーシング用の模様です。

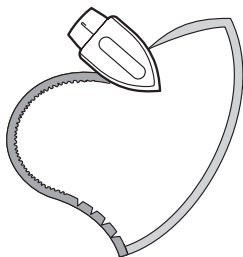
アップリケ

アップリケ押えを使用すると、きれいにぬうことができます。

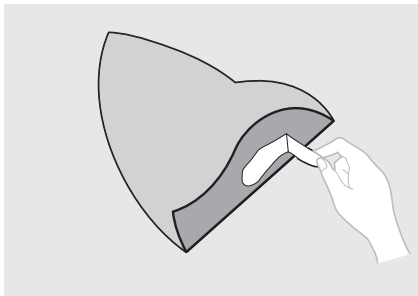
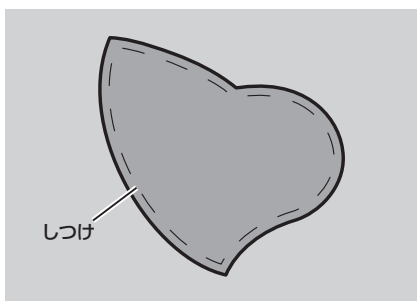
- 1 アップリケ布は3~5mmのぬいしろを付けて裁断します。



- 2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。

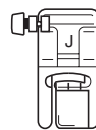


- 3 アップリケ布を表に返し、土台になる布地にしつけまたはのりで留めます。



- 4 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

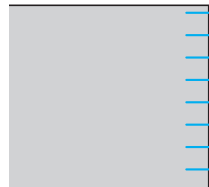
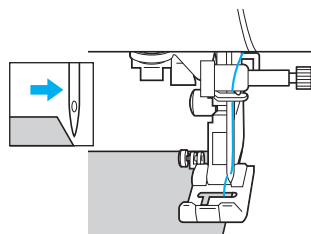
●「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



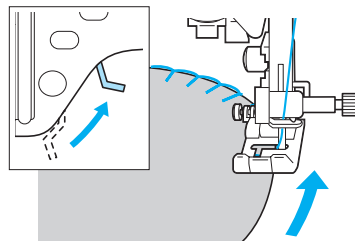
- 5 模様を選択します。

●「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

- 6 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。



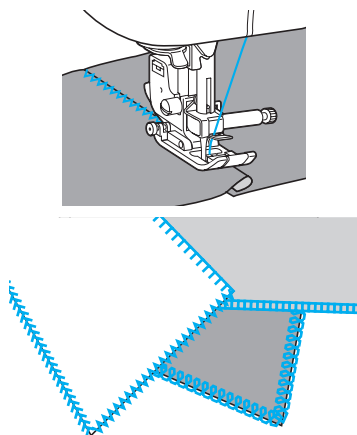
急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク(クレイジーキルト)

1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



ピーシング

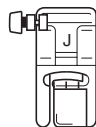
パッチワークで布と布(ピース)をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて6.5mmのぬいしろを付けて裁断します。



ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から6.5mmのところをぬいます。

1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。

2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

●「押えを交換する」(→ P.38)を参照してください。



3 模様  または  を選択します。


●「模様を選ぶ」(→ P.58)を参照してください。

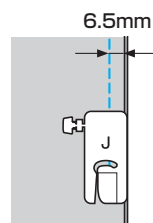
お知らせ

● ピーシング用直線は、模様の右下に「P」と表示されています。

4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

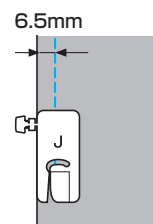
ぬいしろが右側のとき

押えの右端に布端を合わせ、 の模様でぬいます。



ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、 の模様でぬいます。

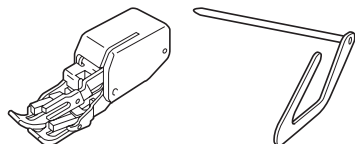


お知らせ

● ぬいしろの幅を変更する(針位置を変更する)場合は、「ぬい目の長さと同幅を調節する」(→ P.51)を参照してください。

キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。別売のウォーキングフットやキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

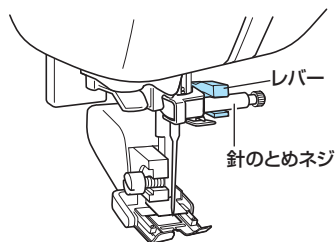


1 キルティングする布地をしついで留めます。

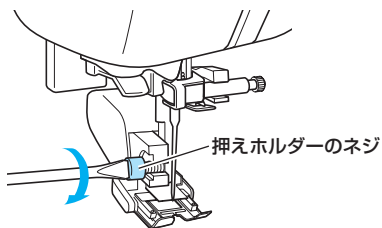
2 押えと押えホルダーを取り外します。

- 「押えホルダーを外すとき」(→ P.39) を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒をはさみます。



4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを差し込んで、ドライバーでしめます。



▶ ウォーキングフットが取り付けられます。

注意

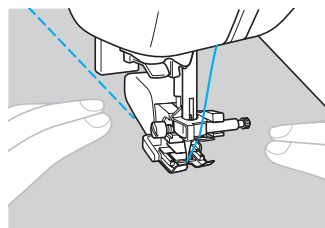


- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。

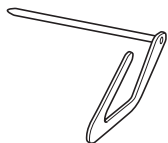


お願い

- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通すか、または糸通しレバーで糸を通した後に、ウォーキングフットを取り付けてください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- キルティングをするときは、14番の針を使用してください。

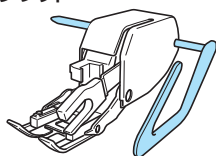
■ キルターを使う

別売のキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

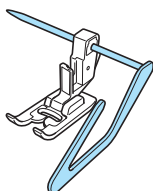


- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

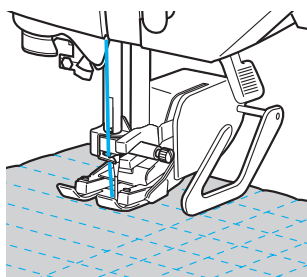
ウォーキングフット



押えホルダー



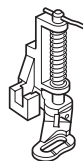
- 2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、送り歯を下げて（ドロップフィード）布地が自由に動かせるようにします。

フリーモーションキルトをするときは、別売のキルト押えを使用します。



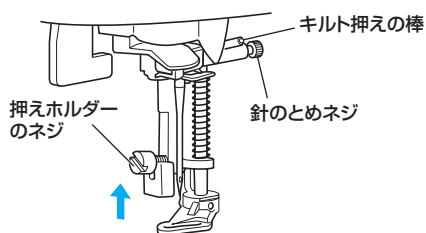
お願い

- キルト押えを使用するときは、手で針に糸を通すか、糸通しレバーで糸を通した後に、キルト押えを取り付けてください。

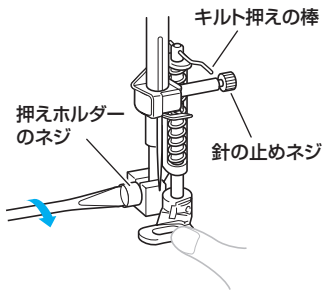
- 1 押えと押えホルダーを取り外します。
 - 「押えホルダーを外すとき」(→ P.39)を参照してください。

- 2 キルト押えを押えホルダーのネジにはめます。

キルト押えの棒が、針のとめネジの棒の上になるようにします。



- 3** キルト押えを右手で押さえ、左手ドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

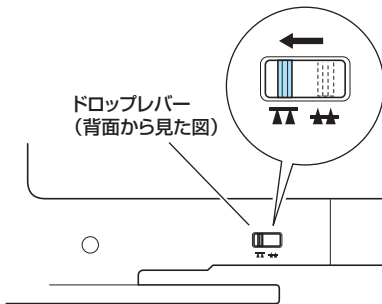


注意



- ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 4** ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（▲▲）にします。



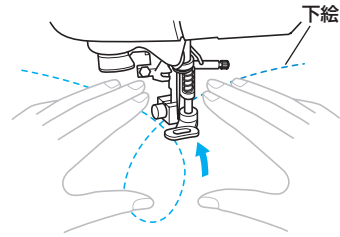
▶ 送り歯が下がります。

- 5** 電源を入れ、模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

- 6** 両手で布地を張ってたるまないようにし、下絵をなぞるように布地を動かします。

ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



- 7** ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側（▲▲）にし、プーリーを回して送り歯をもとに戻します。





お知らせ

- ドロップレバーは通常、右側にしておきます。
- 送り歯は、次にぬい始めたときに上がります。

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するとき 사용합니다。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	02J 	そでや股下などのぬい目を丈夫にする	0.0	0.0~7.0	2.5	1.5~4.0	J
かんどめ	31A 	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0~3.0	0.4	0.3~1.0	A

注意



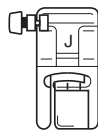
- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。**万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

三重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに使用します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



2 模様 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

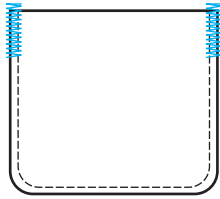
3 ミシンをスタートさせます

- 「ミシンをスタートさせる」(→ P.46) を参照してください。

かんどめ

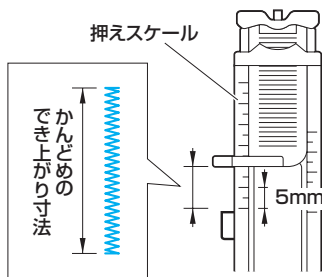
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）を合わせて、長さを決めます。



お知らせ

- 最大約28mmのかんどめができます。

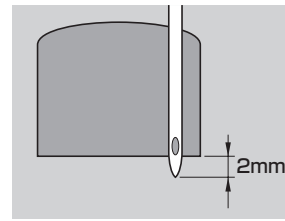
2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。

3 模様^{31A}を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

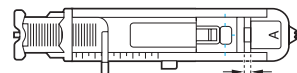
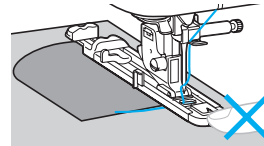
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より2mm手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

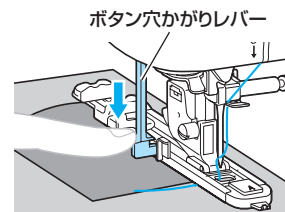
お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押しさないでください。かんどめを正確な大きさにぬえません。



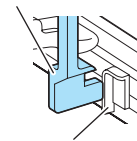
すきまをなくさない

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



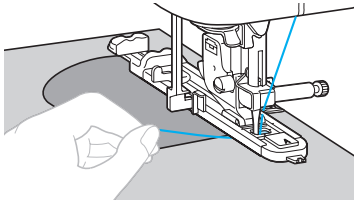
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



突起

- 6** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ めい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 7** 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

- 8** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く(ぬい目をあらく)します。「ぬい目の長さと幅を調節する」(→P.51)を参照してください。

はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。7mm・6mm・5mmの大きさのはとめ穴ができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
アイレット	32N 	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0/6.0 /5.0	-	-	N

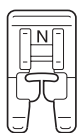
注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。** 万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

1 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



2 模様 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

3 ジグザグの振り幅を調節して、穴の大きさを選択します。

- 「ぬい目の長さと幅を調節する」(→ P.51) を参照してください。



7mm

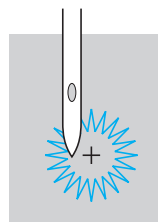


6mm



5mm

4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。

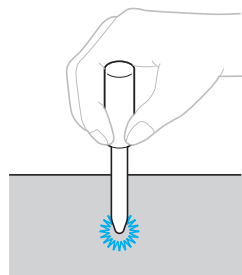


5 ミシンをスタートさせます。

- ▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

6 付属のはとめ穴パンチで穴をあけます。

布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけます。


















お知らせ

- 細かい糸でぬいと、ぬい目があらかくなる場合があります。その場合は、重ねて2回ぬいときれいにできあがります。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え	
			自動	手動	自動	手動		
ファゴティング	16J 	布地と布地の間を離してかかる	5.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	J	
	17J 			2.5 ~ 7.0				
つき合わせ	13J 	飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	1.2	0.2 ~ 4.0		
	14J 			5.0	2.5 ~ 7.0	2.5		1.0 ~ 4.0
	15J 				0.0 ~ 7.0	1.2		0.2 ~ 4.0
スモッキング	16J 	スモッキング	5.0	2.5 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0		
	17J 							
スカラップ	12N 	サテンスカラップ			0.5	0.1 ~ 1.0		N
飾りぬい	18J 	飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	3.0	2.0 ~ 4.0		J
	19J 				2.5	1.0 ~ 4.0		
	20N 	5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	N		
	21N 	3.5		2.5	1.6 ~ 4.0			
	22N 	6.0		3.0	1.5 ~ 4.0			
	23N 	5.0		3.5				
	24N 			4.0				
25N 	2.5							

注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**

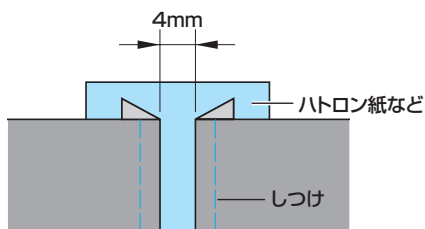
ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

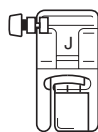
2 ハترون紙などの薄い紙に4mmの間隔をあけて、布地をしつけします。



ハترون紙の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。



3 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

●「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



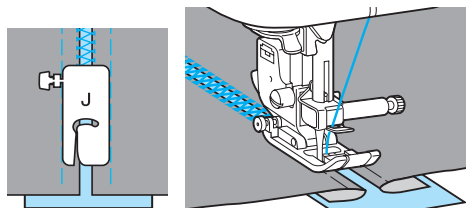
4 模様  または  を選択します。

●「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

5 ジグザグの振り幅を7mmに設定します。

●「ぬい目の長さと幅を調節する」(→ P.51) を参照してください。

6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。



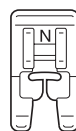
7 ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。


スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに使用します。

1 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

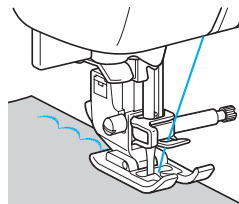
●「押えを交換する」(→ P.38) を参照してください。



2 模様^{12N}  を選択します。

●「模様を選ぶ」(→ P.58) を参照してください。

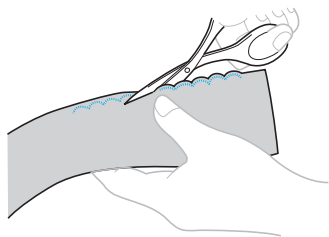
3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



お知らせ

- ぬう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

- 4** ぬい目に沿って布端を切ります。
糸を切らないように注意してください。

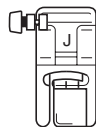


スマッキング

ギャザーの上に模様や刺しゅうをした飾りぬいのことを「スマッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

- 1** ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.38)を参照してください。



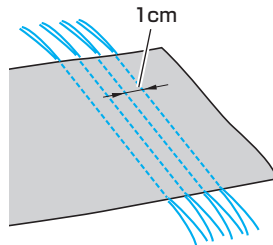
- 2** 直線を選択し、ぬい目の長さを4.0mm、上糸調子を弱めにします。

下糸は上に引き出しておきます。

- 「ぬい目の長さとお幅を調節する」(→P.51)、「糸調子を調節する」(→P.50)、「下糸を引き出してからぬうとき」(→P.34)を参照してください。

- 3** 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいませ。

ぬい終わりは、糸を5cmほど引き出して切ります。

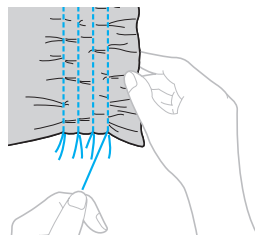




お願い

- 返しぬいと糸切りはしないでください。

- 4** 下糸を引いてギャザーを寄せます。

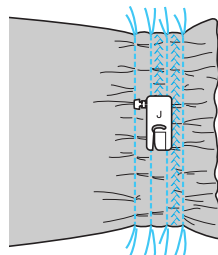
アイロンでギャザーを整えておきます。



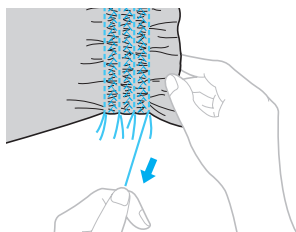
- 5** 模様  または  を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.58)を参照してください。

- 6** 直線ぬいの間をぬいませ。



7 直線ぬいの糸を抜き取ります。

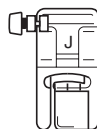


つき合わせ

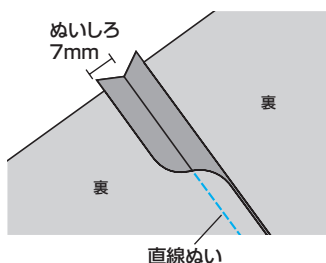
つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。




1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38)を参照してください。



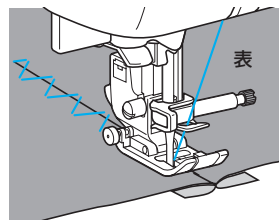
2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。



3 模様 、 または  を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.58)を参照してください。

4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。



ヘアールーム

別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテールブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。

- 針の取り付け方は、「針を交換する」(→ P.37)を参照してください。

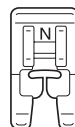


お知らせ

- ウィングニードルは、別売のWN001を使用してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。「手で針に糸を通すとき」(→P.33)を参照してください。

2 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.38)を参照してください。



3

模様を選択します。

模様は ^{21N} ^{22N} ^{23N} ^{24N} ^{25N} が適しています。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.58) を参照してください。

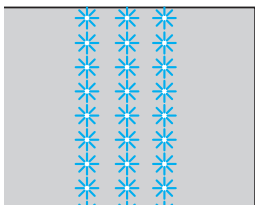


お願い

- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅を、6.0mm以下に設定してください。

4

ミシンをスタートさせます。



注意



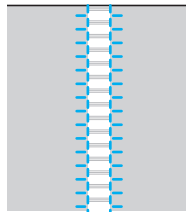
- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ヘアルームの一種で部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布地を使用すると、きれいに仕上がります。

ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

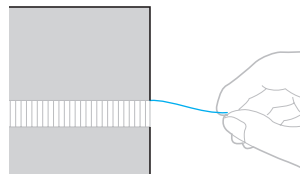
■ ドロンワーク (例 1)

模様を左右反転させて、2回ぬいます。



1

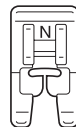
布地の織り糸を数本抜き取ります。



2

模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」 (→ P.38) を参照してください。



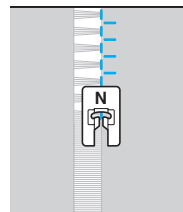
3

模様 ^{21N} を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.58) を参照してください。

4

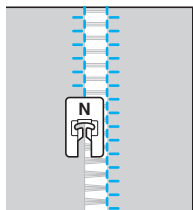
織り糸を抜き取った右端をぬいます。



5

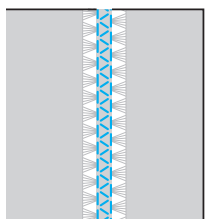
反対側をぬうために、布地の向きを変えます。

- ⑥ 模様が対照になるように反対側をぬいます。

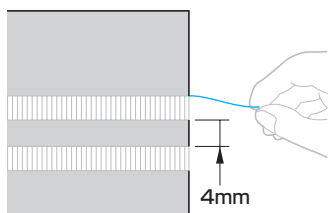


■ ドロンワーク (例2)

布地の織り糸を抜き取った間をぬいます。

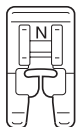


- ① 布地の織り糸を数本抜き取り、約4mmの間隔をあけて、同様に抜き取ります。



- ② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

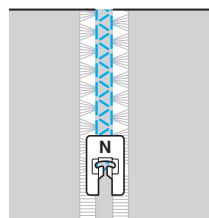
- 「押えを交換する」 (→ P.38) を参照してください。



- ③ 模様 ^{24N} を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.58) を参照してください。

- ④ 織り糸を抜き取った間の布地の中心をぬいます。



4 付録

ここでは、ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法をご紹介します。



設定.....	100
お手入れ.....	103
困ったとき.....	105
仕様.....	118
索引.....	119

設定

模様設定一覧

名称	模様	押え	用途	振り幅(mm)		ぬい目の長さ(mm)		返しぬい スイッチ	ウォーキング フット	サイドカッター 押え
				自動	手動	自動	手動			
直線	00J 	J	地ぬい、ギャザー、ピ ンタックなど	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	返しぬい	×	○
	01J 	J/I	ファスナー付け、地ぬ い、ギャザー、ピンタック など	-	-	2.5	0.2~5.0	返しぬい	×	×
三重ぬい	02J 	J	袖つけ、股下ぬい、伸び る布地、飾りぬい	0.0	0.0~7.0	2.5	1.5~4.0	止めぬい	×	×
伸縮ぬい	03J 	J	伸びる布地、飾りぬい	1.0	1.0~3.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
ジグザグ	04J 	J	たち目かがり、アプリケ	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	返しぬい	×	×
3点ジグザグ	05J 	J	普通地・伸びる布地のた ち目かがり、ゴムひも付 け、つくろいぬいなど	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	止めぬい	×	×
たち目かがり	06G 	G	薄地・普通地のたち目か がり	3.5	2.5~5.0	2.0	1.0~4.0	止めぬい	×	○
	07G 	G	厚地のたち目かがり	5.0	2.5~5.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	○
	08J 	J	伸びる布地のたち目か がり	5.0	0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	止めぬい	×	×
まつりぬい	09R 	R	普通地のまつりぬい	0.0	+3~-3	2.0	1.0~3.5	止めぬい	×	×
	10R 	R	伸びる布地のまつりぬい	0.0	+3~-3	2.0	1.0~3.5	止めぬい	×	×
アプリケ	11J 	J	アプリケ	3.5	2.5~5.0	2.5	1.6~4.0	止めぬい	×	×
サテン スカラップ	12N 	N	スカラップ	5.0	2.5~7.0	0.5	0.1~1.0	止めぬい	×	×
つき合わせ	13J 	J	パッチワークや飾りぬい	4.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	14J 	J	パッチワークや飾りぬい、 トリコット地などのたち 目かがり兼用地ぬい	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
	15J 	J	パッチワークや飾りぬい	5.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	止めぬい	×	×

名称	模様	押え	用途	振り幅(mm)		ぬい目の長さ(mm)		返しぬい スイッチ	ウォーキング フット	サイドカッター 押え
				自動	手動	自動	手動			
ファゴティング	16J 	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
	17J 	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
飾りぬい	18J 	J	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	3.0	2.0~4.0	止めぬい	×	×
	19J 	J	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	止めぬい	×	×
	20N 	N	飾りぬい、ゴムひも付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	止めぬい	×	×
	21N 	N	レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど	3.5	1.5~7.0	2.5	1.6~4.0	止めぬい	×	×
	22N 	N	ふち飾り、ヘアルームなど	6.0	1.5~7.0	3.0	1.5~4.0	止めぬい	×	×
	23N 	N	薄地・普通地平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	3.5	1.5~4.0	止めぬい	×	×
	24N 	N	薄地・普通地平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	4.0	1.5~4.0	止めぬい	×	×
ボタン穴かがり	25N 	N	薄地・普通地平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	2.5	1.5~4.0	止めぬい	×	×
	26A 	A	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	自動止めぬい	×	×
	27A 	A	張りのある素材の両止め用	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	自動止めぬい	×	×
	28A 	A	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0~6.0	1.0	0.5~2.0	自動止めぬい	×	×
	29A 	A	伸びる布地用	6.0	3.0~6.0	1.5	1.0~3.0	自動止めぬい	×	×
かんどめ	30A 	A	厚地・毛足の長い布地の横穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	自動止めぬい	×	×
	31A 	A	ぬい目がほどけやすい箇所、あき止まり部分の補強用	2.0	1.0~3.0	0.4	0.3~1.0	自動止めぬい	×	×
アイレット	32N 	N	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0/6.0 /5.0	-	-	自動止めぬい	×	×
ピーシング直線	33J 	J	ピーシング用直線(押え右端から6.5mmのぬいしろ)	5.5	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	止めぬい	×	×
	34J 	J	ピーシング用直線(押え左端から6.5mmのぬいしろ)	1.5	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	止めぬい	○	×

名称	模様	押え	用途	振り幅(mm)		めい目の長さ(mm)		返しめい スイッチ	ウォーキング フット	サイドカッター 押え
				自動	手動	自動	手動			
手ぬい風直線 (キルト用)	35J 	J	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	止めめい	×	×
ジグザグ (キルト用)	36J 	J	アップリケキルト、フリー モーションキルト、サテ ンぬい	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	止めめい	○	○
アップリケ (キルト用)	37J 	J	アップリケ、バインディ ング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	止めめい	×	×
	38J 	J	アップリケ、バインディ ング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	止めめい	×	×
キルティング模様 (キルト用)	39J 	J	キルトの背景ぬい	7.0	1.0~7.0	1.6	1.0~4.0	止めめい	×	×
クロスステッチ	40N 	N	飾りぬいなど	6.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めめい	×	×
	41N 	N	飾りぬいなど	6.0	0.0~7.0	1.4	0.2~4.0	止めめい	×	×
飾り	42N 	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めめい	×	×
	43N 	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.0	0.2~4.0	止めめい	×	×
	44N 	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めめい	×	×
	45N 	N	飾りぬいなど	7.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	止めめい	×	×
サテンステッチ	46N 	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めめい	×	×
	47N 	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めめい	×	×
	48N 	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めめい	×	×
	49N 	N	飾りぬいなど	7.0	2.5~7.0	0.4	0.1~1.0	止めめい	×	×

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

本体表面の掃除

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤を薄めて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

注意



- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。

本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。

万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店またはお客様相談室(ミシン119番)にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気の多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所

お願い

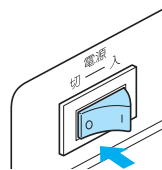
- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

釜の掃除

針板の下にある釜を掃除します。

釜には糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

1 電源を切ります。

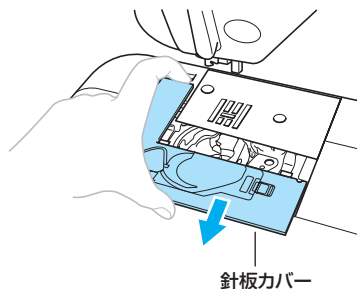


注意



- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

2 針板カバーの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせます。



▶ 針板カバーが外れます。

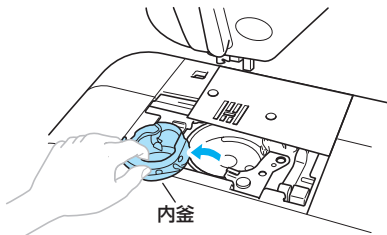
3 プーリーを手前に回し、外釜の切欠部と内釜ツノ部を合わせます。



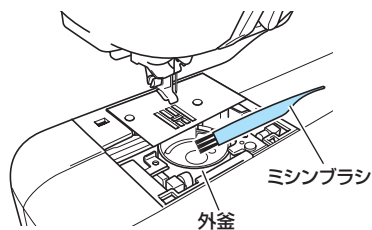
- プーリーは必ず手前に回してください。逆方向に回すと、故障の原因となります。
- 内釜押えは絶対に取り外さないでください。取り外すと、故障の原因となります。

4 内釜を取り出します。

内釜を奥側に押しながら上に持ち上げます。

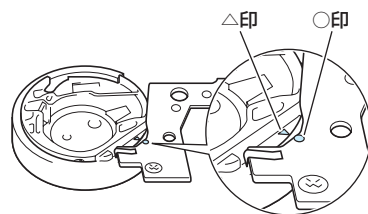
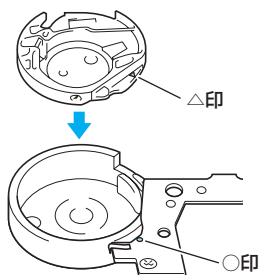


5 付属のミシンブラシや掃除機で、外釜周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

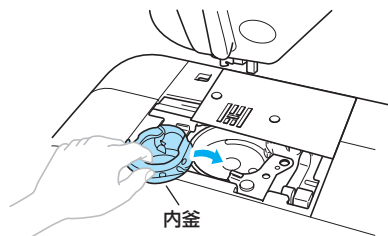


- 外釜や内釜に油をささないでください。

6 内釜の△印と外釜の○印が合うように、内釜を取り付けます。

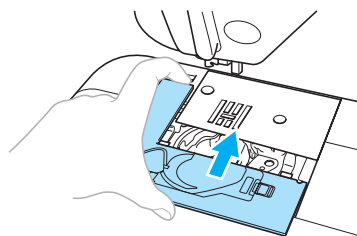


△印と○印を合わせます。



- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

7 針板カバーのツメの部分針板に差し込んでから、奥側にスライドさせます。



注意



- キズが付いた内釜は使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内釜は最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内釜は正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートページ、プラザソリューションセンター(<http://solutions.brother.co.jp>)のQ&Aを確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

よくあるご相談

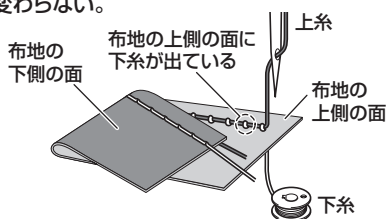
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

■ 上糸がつる	(→ P.105)
■ 布裏で糸がからまる	(→ P.106)
■ 糸調子が合わない	(→ P.108)
■ 布がミシンに入り込んでとれなくなった	(→ P.109)

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の^{上側の面}に下糸がポツポツと出ている(イラスト参照)。
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してもい直してもまったく変わらない。



■ 原因

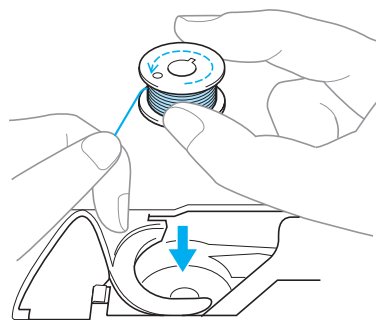
下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

■ 対処方法/確認内容

下糸を正しくセットしなおします。

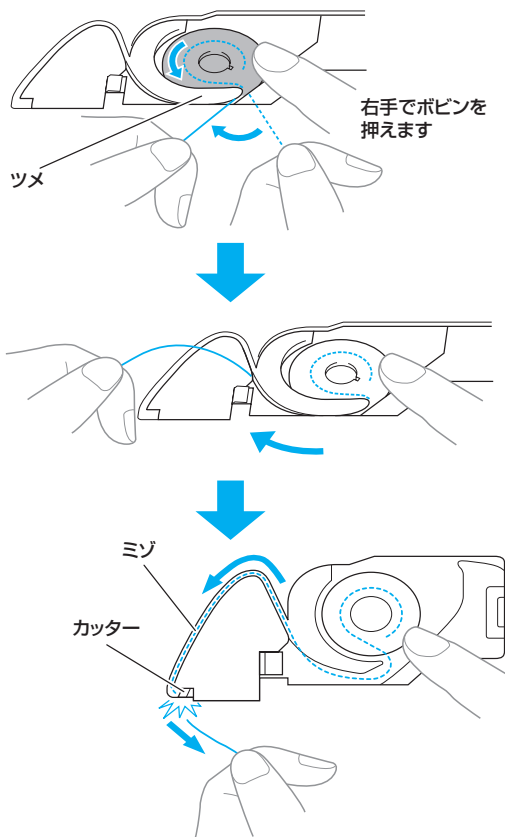
- 1 電源を切ります。
- 2 いったんボビンを内釜から取り出します。
- 3 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内釜にセットします。
 - 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内釜に入れます。



糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子でぬうことができません。

4 ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

- 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。糸を引っ張りながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。

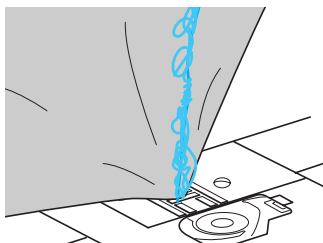


内釜にボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子でぬうことができません。

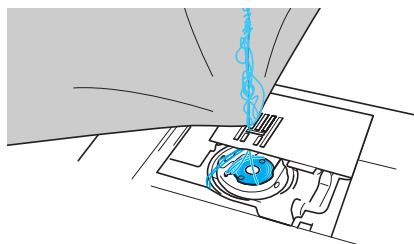
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、釜の中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、釜の中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

1 からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

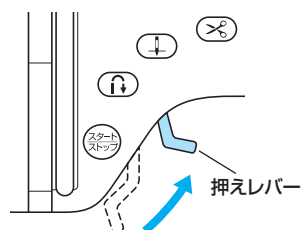
- 「釜の掃除」(→ P.103) を参照してください。

2 いったん上糸をミシンから取り外します。

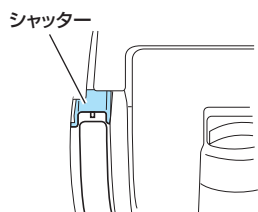
3 以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。

- ボビンを内釜から取り出した場合は、「下糸をセットしましょう」(→ P.22) と「上糸がつる」(→ P.105) の「対処方法／確認内容」を参照して、セットしなおしてください。


4 押えレバーを上げます。



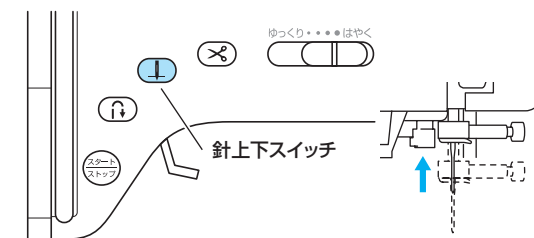
▶ 押えを上げると、シャッターが開きます。



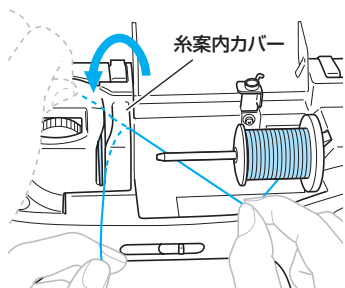
押えが下がった状態では、上糸を正しくセットできません。

- 5**  (針上下スイッチ) を1回または2回押し、針を上上げます。

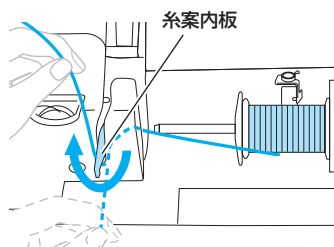
針上下スイッチで針を上上げていなければ、上糸を正しくセットできません。



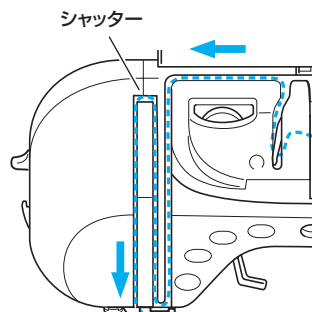
- 6** 糸こまを右手で押さえながら左手で糸を引き出し、糸案内カバーの後ろから手前に糸をかけます。



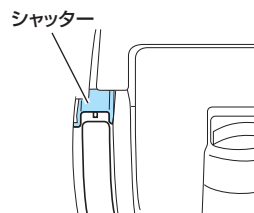
- 7** 糸案内板の右側から下を通して糸をかけます。



- 8** 糸案内板に引っかけた糸を右手で押さえ、ミゾにそって順に糸を通します。

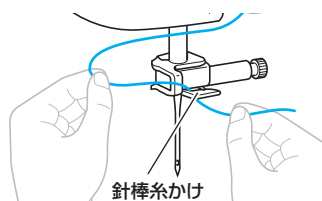


このとき押えが下がっていると図のシャッターが閉まった状態になるため、上糸を通すことができません。必ず押えを上げてシャッターが開いている状態で上糸を通してください。



- 9** 針の根もとにある針棒糸かけに糸をかけます。

図のように、左手で糸を保持し、右手で糸かけを行うと糸がかけやすくなります。



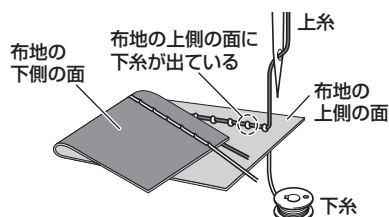
- 10** 「針に糸を通す」(→ P.32) に従って針に糸を通します。

糸調子が合わない

■ こんなとき

- 症状①布地の上側にポツポツと下糸が出ている。
- 症状②布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③布地の下側にポツポツと上糸が出ている。
- 症状④布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

症状①



症状③



■ 原因／対処方法／確認内容

原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

＜上記の症状①、②に該当する場合＞

下糸が正しくセットされていません。

糸調子ダイヤルを自動に戻し、「上糸がつる」(→P.105)を参照してセットし直します。

＜上記の症状③～⑤に該当する場合＞

上糸が正しく通っていません。

糸調子ダイヤルを自動に戻し、「布裏で糸がからまる」(→P.106)を参照して糸をかけ直します。

原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

「針の種類と使い分け」(→P.35)の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

原因 3

糸調子ダイヤルの数値が適正でない。

糸調子ダイヤルを回して、適正な糸調子になるように調節します。

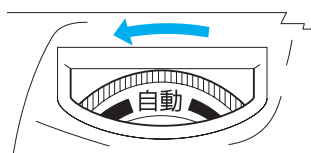
使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

※ 実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをし、糸調子を調節してください。

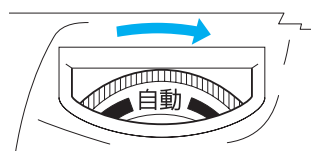
お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子ダイヤルを回しても糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

- 布地の上側に下糸が見える場合
糸調子ダイヤルを左に回し、上糸調子を弱くします。



- 布地の下側に上糸が見える場合
糸調子ダイヤルを右に回し、上糸調子を強くします。



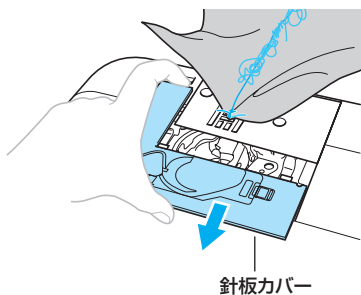
布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。

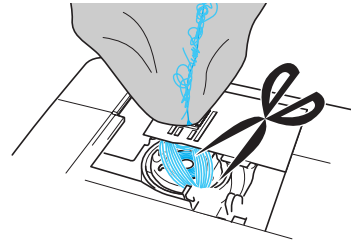
操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」「フリーダイヤル0120-340-233」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

- 1 直ちにミシンを停止させます。
- 2 電源を切ります。
- 3 針を取り外します。
針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。
●「針を交換する」(→ P.37) を参照してください。
- 4 押えレバーを上げて、押えと押えホルダーを取り外します。
●「押えを交換する」(→ P.38)、「押えホルダーを外すとき」(→ P.39) を参照してください。
- 5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。
ここで布を取り外することができる場合は、取り外してください。釜の掃除をするために引き続き、次の手順へお進みください。
- 6 針板カバーを外します。

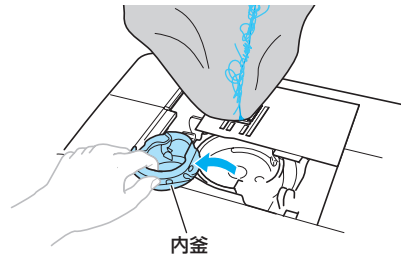


- 7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。

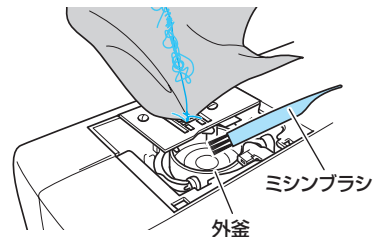


- 8 内釜を取り出します。

内釜に糸が残っている場合は、取り除いてください。

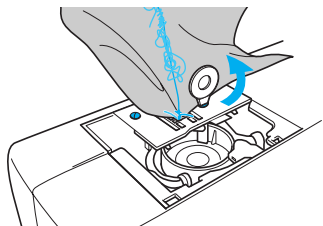


- 9 付属のミシンブラシや掃除機で、外釜周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



ここまでの手順で布を取り外せた場合	→手順16に進む
ここまでの手順で布を取り外せない場合	→手順10に進む

- 10** 付属のネジ回しを使って、針板の二つのネジを取り外します。

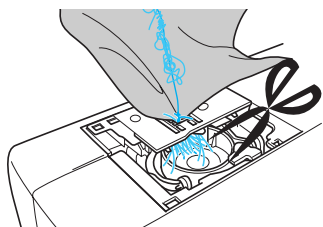


お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 11** 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



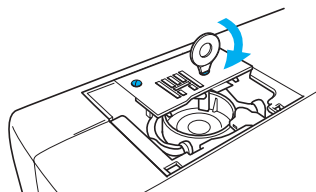
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」「フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

- 12** 釜や送り歯のまわりの糸を取り除きます。

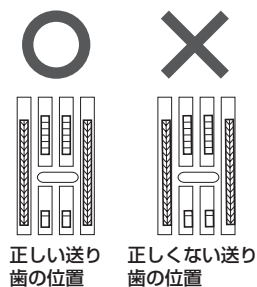
- 13** プーリーを回して、送り歯を上に戻します。

- 14** 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

- 15** 針板の右側のネジを手で軽く締めます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかり締めます。最後に右のネジもしっかり締めます。



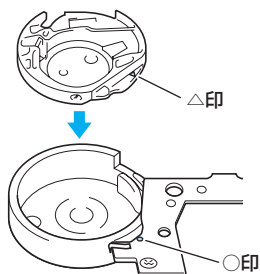
プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。

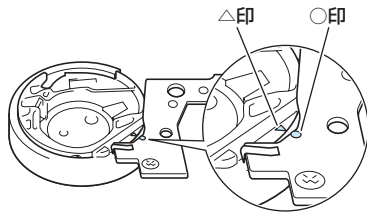


お願い

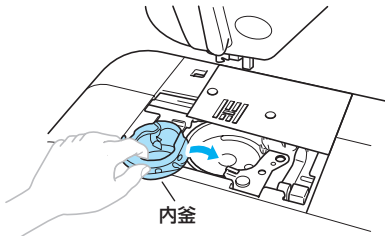
- 取り外したねじを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 16** 下図のように△印と○印が合うように、内釜を取り付けます。



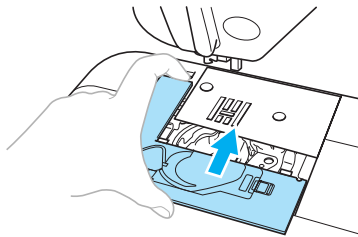


△印と○印を
合わせます。





- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

- 17** 針板カバーのツメの部分を針板に差し込んでから、奥側にスライドさせます。



注意


-  キズが付いた内釜は使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内釜は最寄りの販売店でお買い求めください。
-  内釜は正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

- 18** 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- 「正しい針の見分け方」(→ P.36)、「針を交換する」(→ P.37)を参照してください。

注意

-  曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。

お願い

- ここまでの手順を終えたあとは、ミシンが正しく動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の手順を続けてください。


お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをお勧めします。

ミシンの動作を確認する

いったん針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

- 1** 電源を入れます。

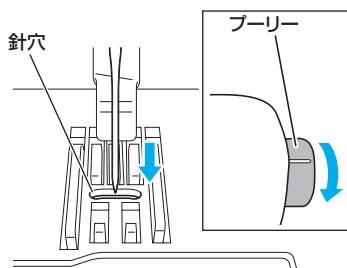
- 2** 中基線の模様  を選択します。

お願い

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

- 3** プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」の手順**13**(→P.110)からやり直してください。



- 4** ジグザグ模様 ^{04.7} を選択します。このとき、ぬい目の長さ^{04.7}と振り幅を最大にしてください。

設定の変更については、「ぬい目の長さ^{04.7}と幅を調節する」(→P.51)を参照してください。

- 5** プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」「フリーダイヤル0120-340-233)」にご相談ください。

- 6** 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

- 「下糸をセットしましょう」(→P.22)、「押えを交換する」(→P.38)を参照してください。

- 7** 上糸をかけなおします。

- 上糸のかけ方については、「上糸を通しましょう」(→P.29)を参照してください。

お願い

- 上糸が正しくセットされていない場合は、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

- 8** 普通地で試しぬいをします。

お願い

- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

こんなときには

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン19番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

■ めう前の準備

こんなとき	原因	対処	参照ページ
自動糸通しができない	針が上に上がっていない。	針上下スイッチを押します。	P.30
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.37
下糸がボビンにきれいに巻けない	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに4～5回ボビンに巻き付けます。	P.24
	下糸巻き案内に糸がしっかりかかっている。	下糸巻き案内に糸をしっかりとかけます。	P.24
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	P.25
	下糸の巻き方がまちがっている。	受け座の下に巻かれた糸をほどいた後、下糸を正しく巻きます。	P.26
針穴に糸が通らない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチで針を上げます。	P.30
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.37

■ めっているとき

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.21
	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	P.46
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	—
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P.46
	下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	P.25
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.37
	針の止めネジがゆるんでいる。	ドライバーを使って止めネジをしっかりとしめます。	
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.35
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P.100
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.50
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	—
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.30

こんなとき	原因	対処	参照ページ
針が折れる	針板の穴の周囲に傷がある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺に傷がある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	—
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	—
	本製品純正のポピンを使用していない。	本製品純正のポピンを使用してください。	P.22
上糸が切れる	上糸の通し方がまちがっている。(糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、針棒糸かけから糸が外れているなど)	上糸を正しく通します。	P.29
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	—
	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P.35
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.50
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.103
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.37
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲に傷がある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺に傷がある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	—
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	—
本機専用のポピンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ポピンを使用してください。	P.22	
上糸がつる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.27
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットの仕方がまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.27
	ポピンに傷があり、回転がなめらかでない。	ポピンを交換します。	—
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、釜を掃除します。	P.103
	本機専用のポピンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ポピンを使用してください。	P.22


こんなとき	原因	対処	参照ページ
布地にしわがよる	上糸の通し方または下糸のセットの仕方がまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P.27, P.29
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.30
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.35
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.37
	薄地の場合に、ぬい目があらずぎる。	ぬい目を細かくします。または布地の下にハトロン紙などを敷いてぬいます。	P.51, P.53
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.50
ぬい目がとぶ	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.29
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.35
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.37
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	
	針板の下や釜にほこりなどがたまっている。	針板ふたを取り外して釜を掃除します。	P.103
ぬっているときの音が 高い ガタガタと音が する	送り歯や釜にほこりがたまっている。	釜を掃除します。	P.103
	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.29
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (マシン 119 番)」(フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	—
	本機専用のボビンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	P.22
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを左に動かします。	P.87
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P.51
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P.100
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.37
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.103
布地が逆方向に送られる	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (マシン 119 番)」(フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	—
布がマシンに入り込んでとれない	糸が針板の下でからんでいる。	布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。次に釜の掃除をします。	P.109

■ 仕上がり

こんなとき	原因	対処	参照ページ
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.29
	下糸のセットの仕方がまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.27
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.35
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P.39
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.50
	本機専用のボビンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	P.22
模様がきれいにぬえない	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P.100
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.50
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.103
布裏で糸がからまる	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.106

エラーメッセージと電子音について

ミシンが正しく準備できていない状態で、スタート/ストップスイッチまたは返しぬいスイッチが押されたときや、まちがった操作をしたときは、エラーメッセージと電子音でお知らせします。

エラーメッセージが表示されたとき、 (模様選択キー)を押すか正しい操作をすると、メッセージは消えます。

■ エラーメッセージ

エラーメッセージ	原因
E1	押えが上がった状態でスタート/ストップ・返しぬいのいずれかのスイッチを押した。
E2	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり・かんだめ以外を選択して、スタート/ストップまたは返しぬいスイッチを押した。
E3	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり・かんだめを選択して、スタート/ストップスイッチを押した。
E4	下糸巻軸を右にした状態で返しぬい・針上下のいずれかのスイッチを押した。
E5	フットコントローラーを取り付けた状態でスタート/ストップスイッチを押した。
E6	上糸が釜にからんだため、ミシンが停止した。
F1~F7	ミシンが故障していることが考えられますので、お買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番) (フリーダイヤル 0120-340-233) までお問い合わせください。

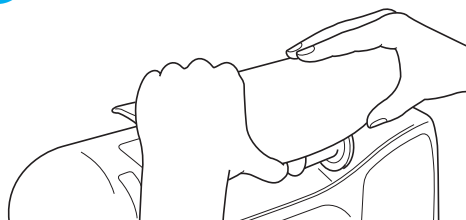
■ 電子音

- 正しい操作をしたとき
「ピッ」と鳴ります。
- まちがった操作をしたとき
「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。
- 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき
「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続けます。ミシンは自動的に止まり、4秒経過すると操作可能な状態に戻ります。
必ず原因を確認して改善した上で、再開してください。

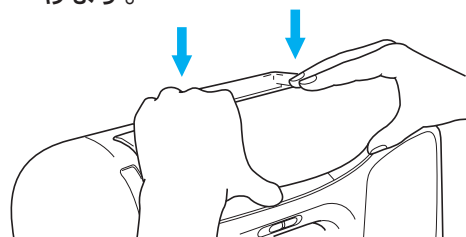
上ふたが外れたとき

本体上のふたが外れたときは、以下の手順で取り付けます。

1 上ふたを水平に持ちます。



2 上ふたを上から押して、本体に取り付けます。



仕様

本体仕様

項目	仕様
本体寸法	幅 436mm × 奥行 212mm × 高さ 287mm
本体質量	7.6kg
ぬい速度	毎分 70 ~ 850 針
定格電圧 / 消費電力	100V (50 / 60Hz) / 45W
ライト	白色 LED
搭載模様数	50 種類

索引

数字

3点ジグザグ 61, 80

P

PL 1

Q

Q&A 113

あ

アーム 41
アイレット 91
あき止まり 88
厚地をぬう 52
アップリケ 83
綾巻き 23, 30
安全にお使いいただくために 1

い

糸案内カバー 14, 24, 31
糸案内皿 15, 32
糸案内板 14, 24, 31
糸切り 14, 49
糸切りスイッチ 16, 49
糸こま押え 11, 23, 30
糸こまネット 12, 33
糸たて棒 14, 23, 30
糸調子 50
糸調子ダイヤル 14, 50
糸通し装置 32
糸通しレバー 14, 32

う

ウィングニードル 95
上ふた 14, 30, 117
ウォーキングフット 13, 85
受け座 24
薄地をぬう 53
内釜 104
上糸 29
上糸調子 50

え

エラーメッセージ 117

お

送り歯 15
押え 12, 15, 38
押えホルダー 15, 38
押えレバー 16
お手入れ 103

か

カーブをぬう 52
ガイドミゾ 24
返しぬい 47
返しぬいスイッチ 16, 47
飾りぬい 92
片押え 12, 76
片返し 77
角をぬう 52
釜 27, 103
換気口 15
かんたん操作ガイド 11
かんどめ 89

き

基線 65
ギャザー 94
曲線をぬう 52
キルター 13, 86
キルティング 85
キルト押え 13, 86

く

クレイジーキルト 84

け

ケース 11

こ

腰が強い糸 33
ゴムテープ付け 81
コンセント 21

さ

サイドカッター押え 13, 62
三重ぬい 64, 88

し

ジグザグ 61, 82
ジグザグ押え 12, 61, 64, 75, 80, 82, 83, 88, 93
ジグザグの振り幅調節レバー 17, 51
ジグザグの振り幅マニュアルスイッチ 17, 51
下糸 22
下糸巻き案内 14, 24
下糸巻軸バネ 23
下糸巻き装置 14, 22
下糸を引き出す 34
自動返しぬい 55
自動返しぬい/止めぬいスイッチ 17, 55
自動止めぬい 55
地ぬい 64

シャッター	31
仕様	118
伸縮ぬい	80

す

スカラップ	93
すそ上げ	66
スタート	46
スタート/ストップスイッチ	16, 46
ストッパー	37
スピードコントロールレバー	14, 16
スモッキング	94

せ

選択模様表示	17
前面	14

そ

操作スイッチ	14, 16
掃除	103
速度	46
側面	15
そで付け	88

た

たち目かがり	60
たち目かがり押え	12, 60
試しぬい	52

ち

チーズ巻き	23, 30
直線ぬい	64

つ

つき合わせ	75, 95
筒もの	41

て

手で針に糸を通す	33
電源	20
電源コード	15, 21
電源コンセント	21
電源スイッチ	15, 21
電源プラグ	21
電子音	117

と

特長	10
止めぬい	48, 55
止めネジ	37
ドライバー	11, 37
トラブル	113
取扱説明 DVD	11
ドロップフィード	86
ドロップレバー	15, 87

ドロンワーク	96
--------	----

な

長さ	51
----	----

ぬ

ぬいしろの始末	60
ぬいしろの幅をそろえる	54
ぬい目の長さ調節レバー	17, 51
ぬい目の長さマニュアルスイッチ	17, 51
布地のセット	45
布地を送らない	86

の

伸びる布地	53, 80
-------	--------

は

ハードケース	11
背面	15
パッチワーク	82, 84
はとめ穴	91
はとめ穴パンチ	11, 72, 91
幅	51
針	35
針板	15, 54
針板ふた	15, 27
針位置	51
針上下スイッチ	16
針停止位置	55
針停止位置スイッチ	17, 55
針の交換	37
針棒糸かけ	15, 31
ハンドル	15

ひ

ピーシング	84
表示パネル	14, 17

ふ

ファゴティング	93
ファスナー付け	75
ブーリー	15, 45
付属品	11
フットコントローラー	13, 46
フットコントローラージャック	15
フリーアーム	41
フリーモーションキルト	86
振り幅	51

へ

ヘルーム	95
別売品	13

ほ

方向を変える	52
--------	----

補強.....	88
ポケット口.....	88
保証書.....	11
補助テーブル.....	14
ボタン穴かがり.....	69
ボタン穴かがり押え.....	12, 70, 89
ボタン穴かがりレバー.....	15, 71, 89
ボタンホール.....	69
ほつれ止め.....	60
ボビン.....	12, 22
ボビン受け座.....	24

ま

まつりぬい.....	66
まつりぬい押え.....	12, 67

み

ミシンの名称.....	14
ミシン針.....	12, 35
ミシンブラシ.....	11, 104

も

模様一覧.....	17
模様設定一覧.....	100
模様選択スイッチ.....	17, 58
模様ぬい押え.....	12, 91
模様の選択.....	58
模様の幅.....	51

り

リッパー.....	12, 72
-----------	--------

わ

ワイドテーブル.....	13, 41
--------------	--------

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室(ミシン119番)」にお問い合わせください。

■ お客様相談室(ミシン119番)0120-340-233

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの「販売店」または「お客様相談室(ミシン119番)」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市長区瑞穂区苗代町15-1

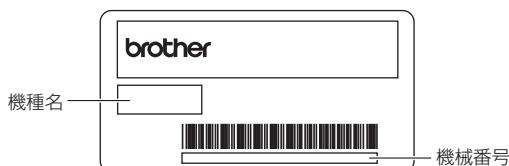
お客様相談室(ミシン119番) Tel:0120-340-233

Fax:052-824-3031

受付時間:月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日:土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室(ミシン119番)は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。ミシン背面の定格ハリマーク(銀色シール)の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室(ミシン119番)」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
<http://www.brother.co.jp/>

ブラザーソリューションセンターでは、家庭用ミシンに関するサポート情報を掲載しております。

http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市長区瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

114-S58
Printed in China



XF6532-001